



JTRUST

2017年3月期

決算説明資料

2017年5月

Jトラスト株式会社



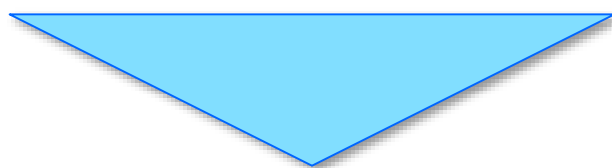
- 1. 決算のポイント**
 - 2. 2017年3月期 通期決算概要**
 - 3. セグメント別業績と取り組み**
 - 4. 2018年3月期 通期計画**
 - 5. 今後の成長に向けた取り組み**
- APPENDIX**

免責事項

- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。
様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- また、説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社または子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- 東南アジア金融事業は2016年1月1日から2017年3月31日までの15ヶ月の業績を反映しております。
- 本資料に記載したIFRSの数値は、当社が参考値として策定した未監査の数値であることをご承知おき下さい。

1. 決算のポイント

- GL社転換社債 新株予約権部分の評価損 -34億円
- Jトラスト銀行 過去の負の遺産に対する
一過性の貸倒引当金計上 -46億円
- 東南アジア金融事業 期ずれ解消（15ヶ月決算） -11億円



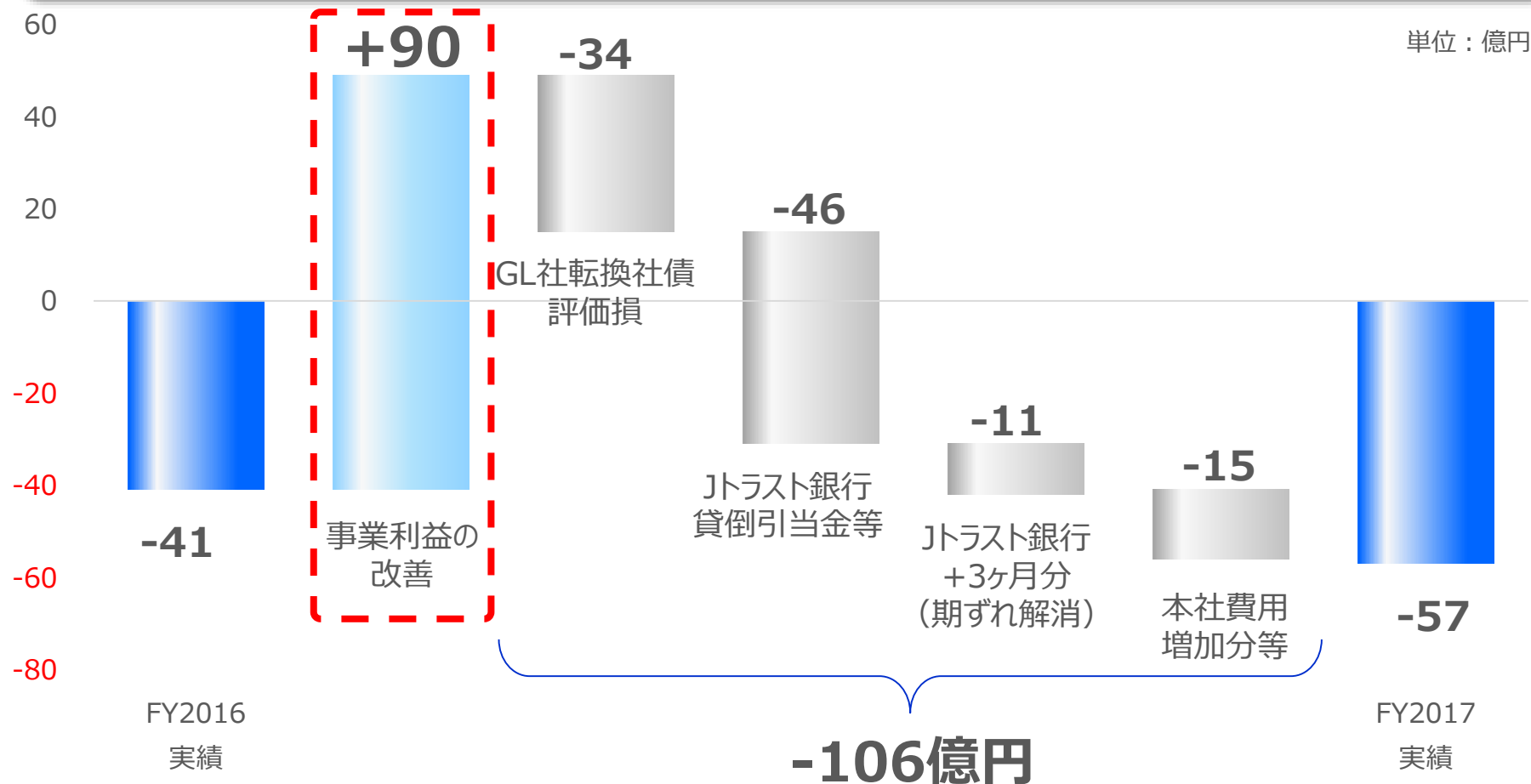
通期57億円の営業損失

キャッシュフローに影響しない
会計上の評価性部分を除く

事業の利益は

90 億円増加

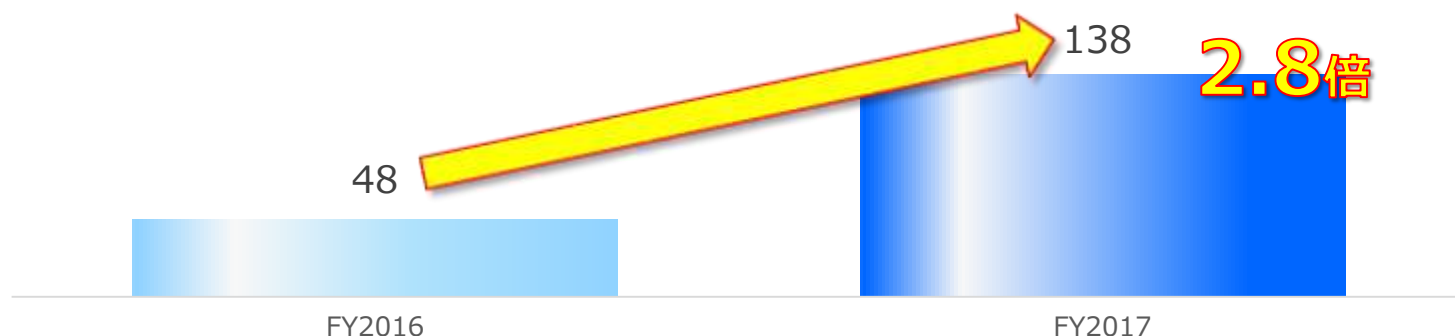
- キャッシュフローに影響しない会計上の評価性部分を除くと、事業の利益は90億円増加
- 以下4つのマイナス要因合計106億円により、営業損失57億円となる



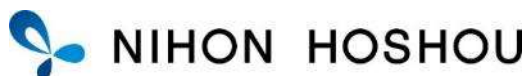
- 営業損益から評価性の引当等の影響を控除し、投資事業損益を差し引いた事業の利益は、前年同期比2.8倍の138億円を計上（90億円増）

単位：億円

	FY2016 1Q	2Q	3Q	4Q	FY2016 累計	FY2017 1Q	2Q	3Q	4Q	FY2017 累計
営業損益 (A)	-19	-3	2	-20	-40	11	-51	73	-90	-57
評価性引当等 (B)	44	18	30	23	115	34	78	32	49	193
投資事業損益 (C)	0	8	18	1	27	13	-7	71	-79	-2
事業の利益(A+B-C)	25	7	14	2	48	33	34	34	38	138



国内金融事業

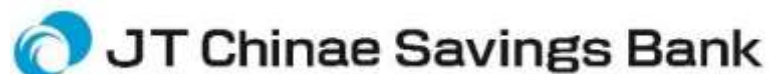


PARTIR



- 通期46億円の営業利益を実現
(前期比1.2倍)

韓国金融事業



- 負ののれんの消化およびTAアセットの
未実現損失合計15億円を計上するも、
通期16億円の営業利益を実現
(前期比8倍)

東南アジア金融事業



- 過去の負の遺産に対する一過性の貸倒
引当金46億円を計上
- IFRS導入に向けた期ずれの解消

投資事業



- GL社の転換社債の予約権部分の評価
損34億円を計上

2. 2017年3月期 通期決算概要

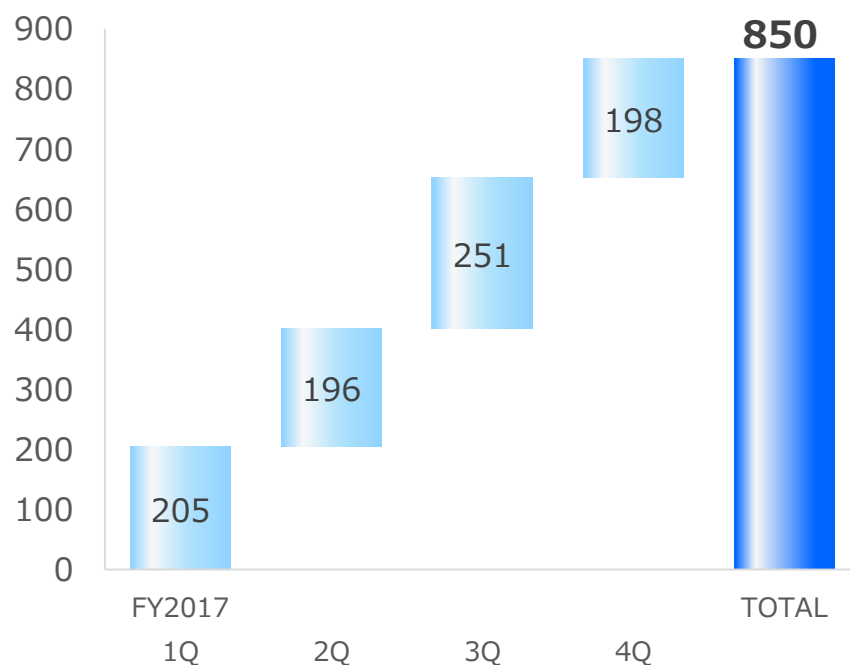
- 営業収益は四半期Ave.212億円と安定的に収益を計上
- 4Q営業損失のうち70億円はGL株式下落による転換社債の予約権部分の評価損

J-GAAP

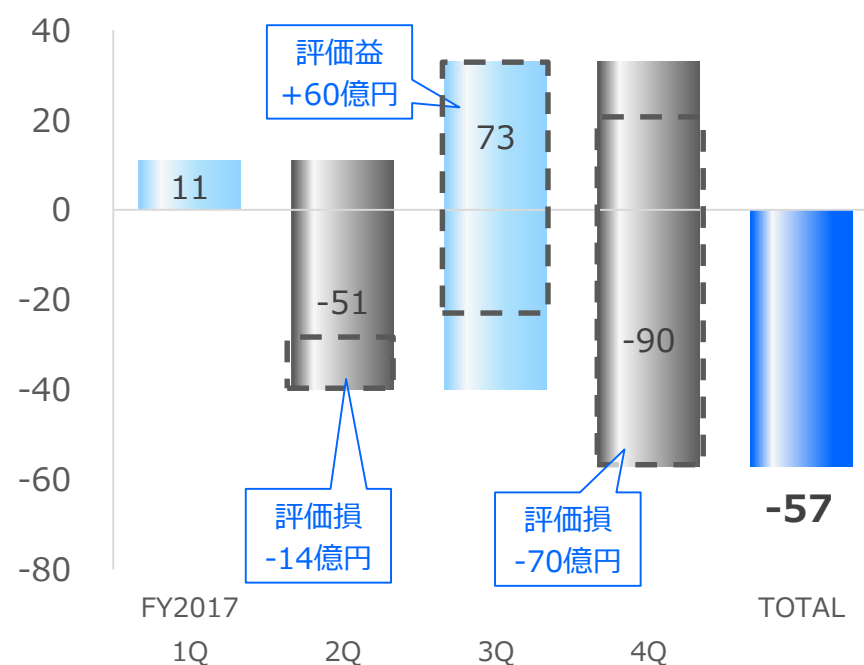
四半期毎 営業収益・営業利益の推移

単位：億円

営業収益



営業利益



- 営業収益は850億円と前期比96億円の増収
- 営業利益は-57億円と前期比-16億円の減益

J-GAAP

前年同期比

	FY2016	FY2017	差異
営業収益	754億円	850億円	+96億円
営業利益	-41億円	-57億円	-16億円
経常利益	-46億円	-67億円	-21億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	-57億円	-98億円	-41億円
調整後EBITDA	4億円	7億円	+3億円

調整後EBITDA：営業利益＋のれん償却額＋減価償却費

➤ 国内金融事業、韓国金融事業、東南アジア金融事業はいずれも増収

J-GAAP

営業収益（前年同期比）

	FY2016	FY2017	差異
国内金融事業	108億円	109億円	+1億円
韓国金融事業	254億円	291億円	+37億円
東南アジア金融事業	122億円	177億円	+55億円
投資事業	26億円	25億円	-1億円
非金融事業	227億円	221億円	-6億円
その他	14億円	24億円	+10億円
合計	754億円	850億円	+96億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンターテインメント事業

※その他：商業施設建築事業、システム事業等

- 国内金融事業、韓国金融事業ともに増益
- 東南アジア金融事業および投資事業は減益

J-GAAP

営業利益（前年同期比）

	FY2016	FY2017	差異
国内金融事業	37億円	46億円	+ 9億円
韓国金融事業	2億円	16億円	+ 14億円
東南アジア金融事業	-78億円	-86億円	-8億円
投資事業	25億円	-1億円	-26億円
非金融事業	0億円	3億円	+3億円
その他	-27億円	-35億円	-8億円
合計	-41億円	-57億円	-16億円

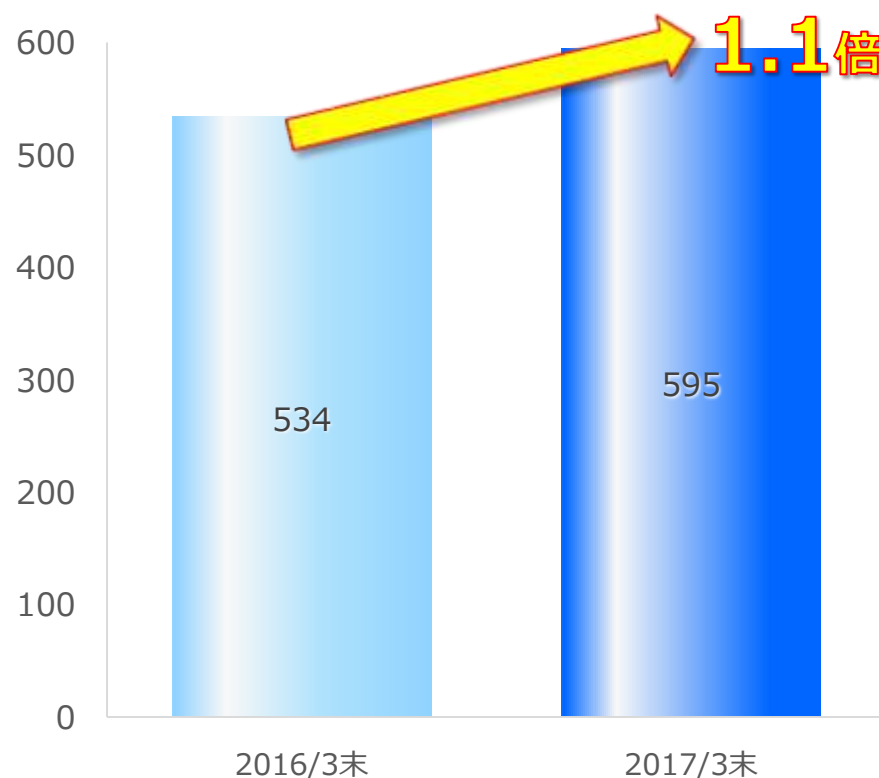
※非金融事業：不動産事業および総合エンターテインメント事業

※その他：商業施設建築事業、システム事業等

▶ ネットキャッシュは前年同期比1.1倍の595億円

ネットキャッシュの推移

単位：億円



	2016年3月末	2017年3月末
現預金および 有価証券(A)	1,470	1,531
有利子負債総額 (B)	531	562
銀行業 ネットキャッシュ(C)	405	374
ネットキャッシュ (A)-(B)-(C)	534	595

※有利子負債には商業手形割引を含む

3. セグメント別業績

3-1. 国内金融事業

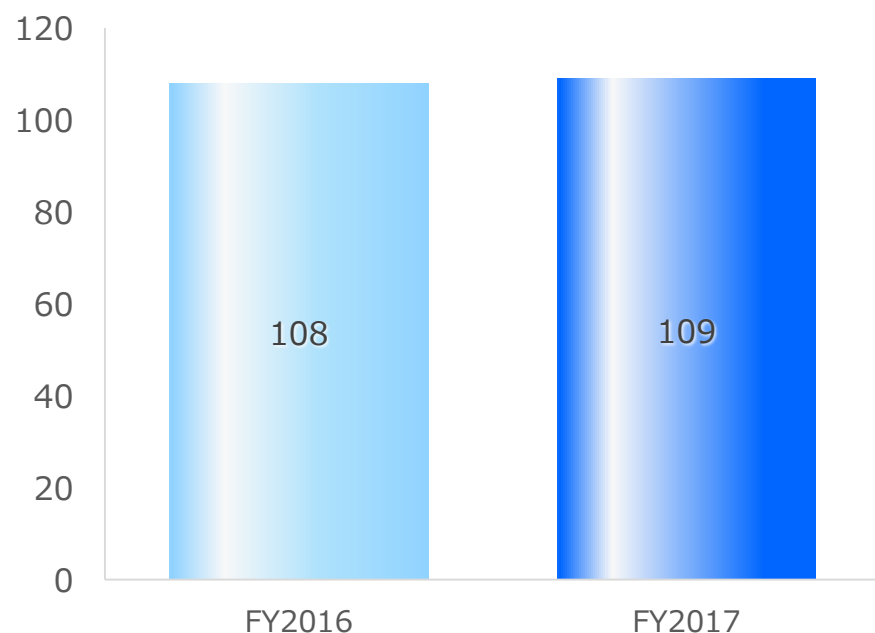
- 営業利益は前年同期比1.2倍の46億円
- 販管費が圧縮され、今後も生産性が向上することで、利益を確保

J-GAAP

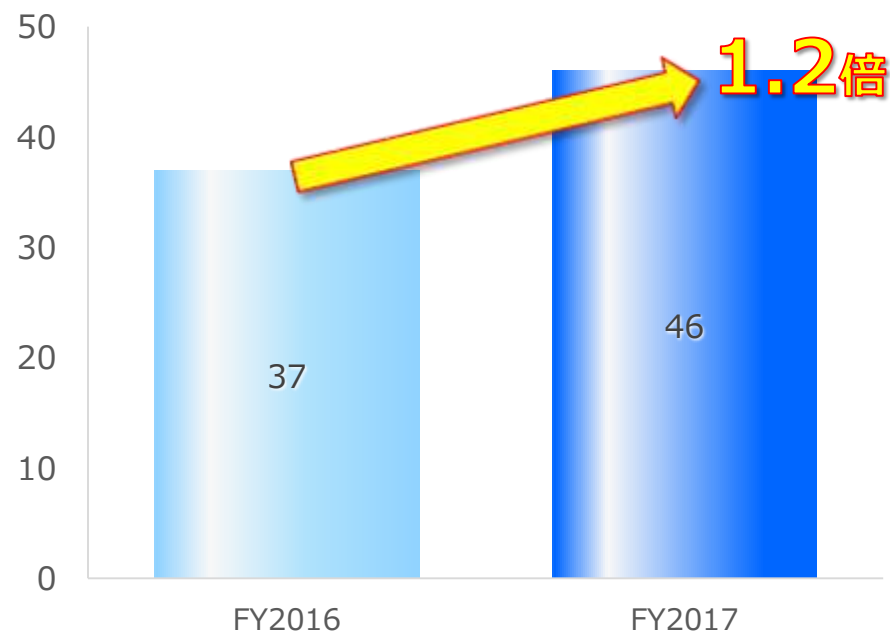
国内金融事業

単位：億円

営業収益



営業利益

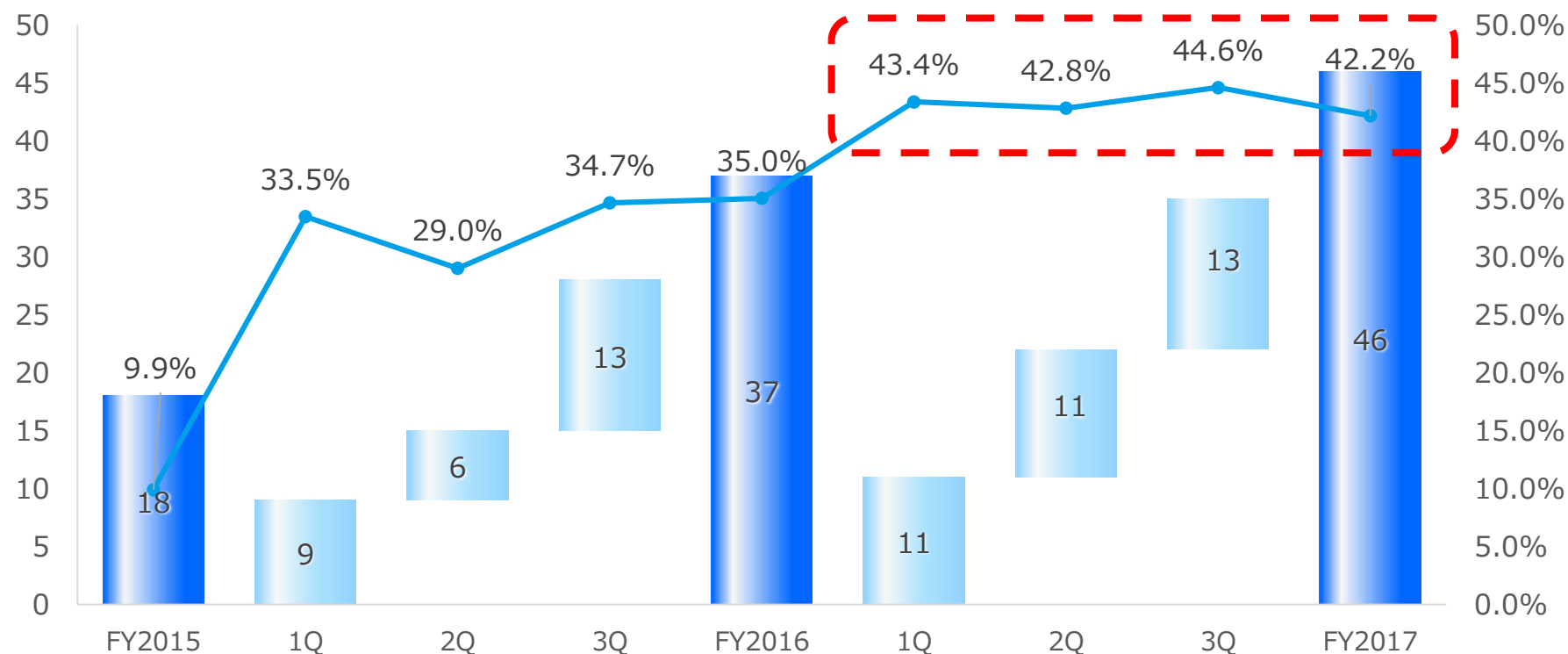


➤ 2017年3月期は通期40%を超える営業利益率で推移

J-GAAP

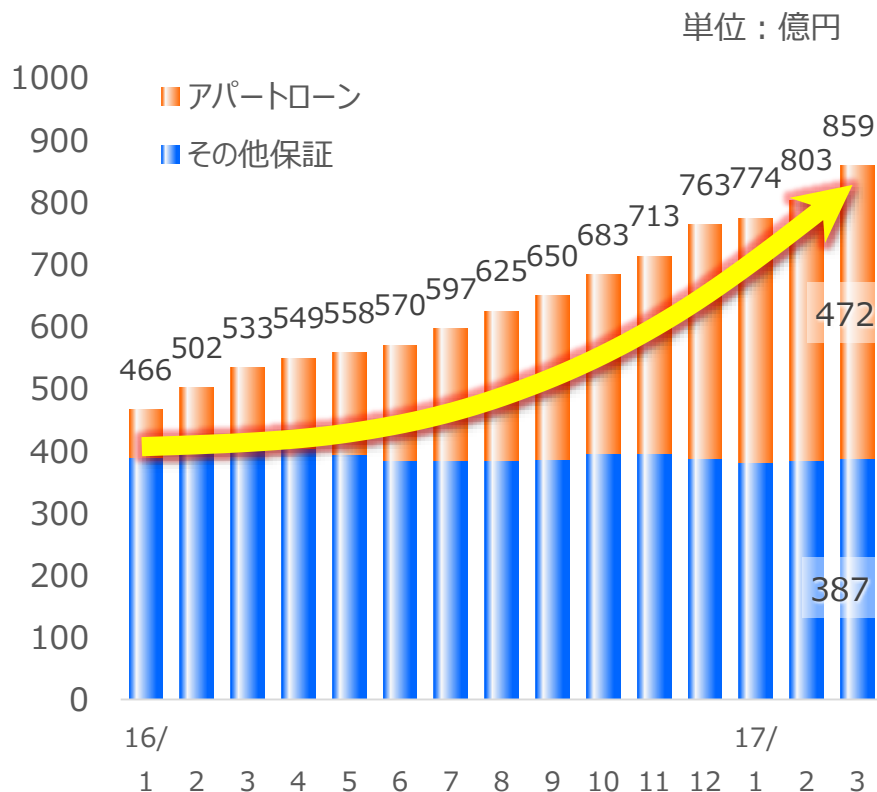
国内金融事業 営業利益と営業利益率の推移

単位：億円

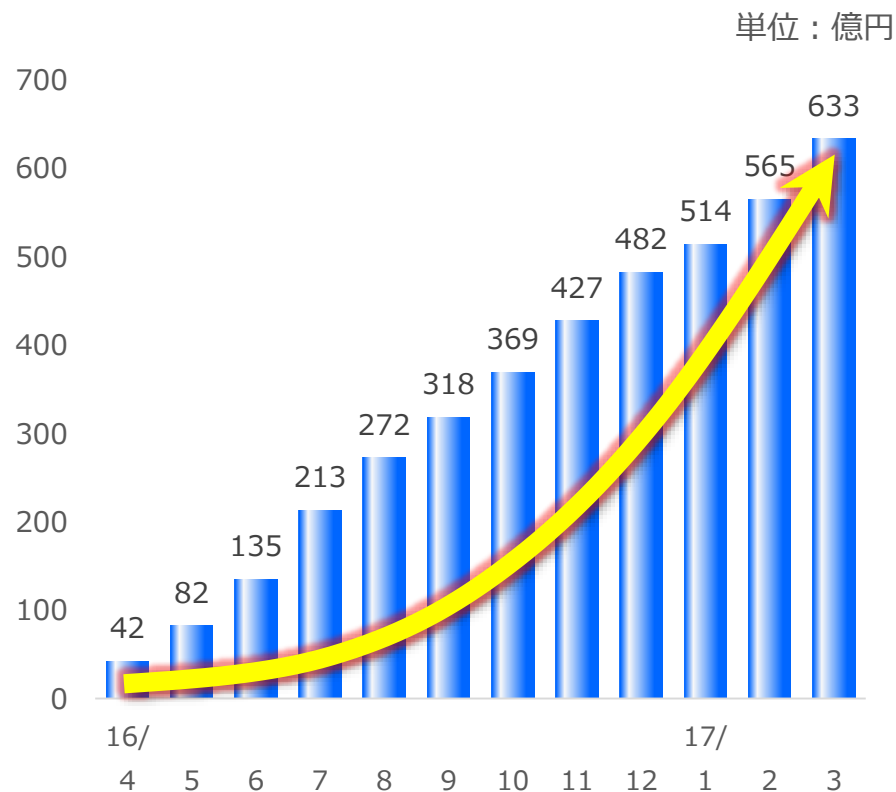


- 厳選した物件を保証のターゲットにしており、入居率は97%超を維持
- リスクを勘案した、慎重な与信審査を行ったうえでもアパートローン保証残高は順調な積み上がりを実現

保証残高の推移



アパートローン保証本承認累計金額

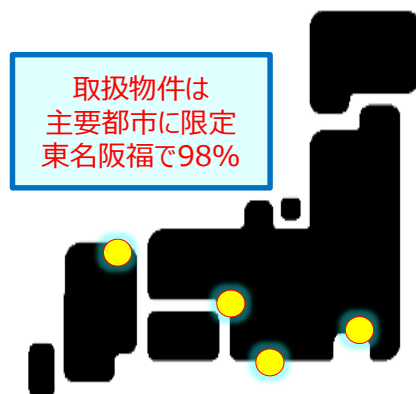


- 日本保証は以下3つの取り組みにより、アパートローン保証のリスクを回避
- ① 物件エリアの選別
 - ② 最寄駅徒歩10分圏内
 - ③ ハウスメーカーを厳選

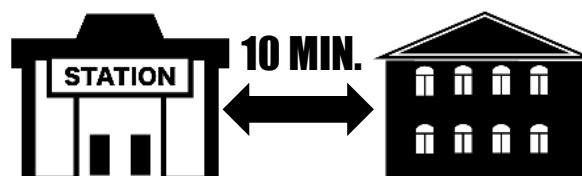
日本保証におけるアパートローン保証の取り組み



① 物件エリアの選別



② 最寄駅徒歩10分圏内



③ ハウスメーカーを厳選

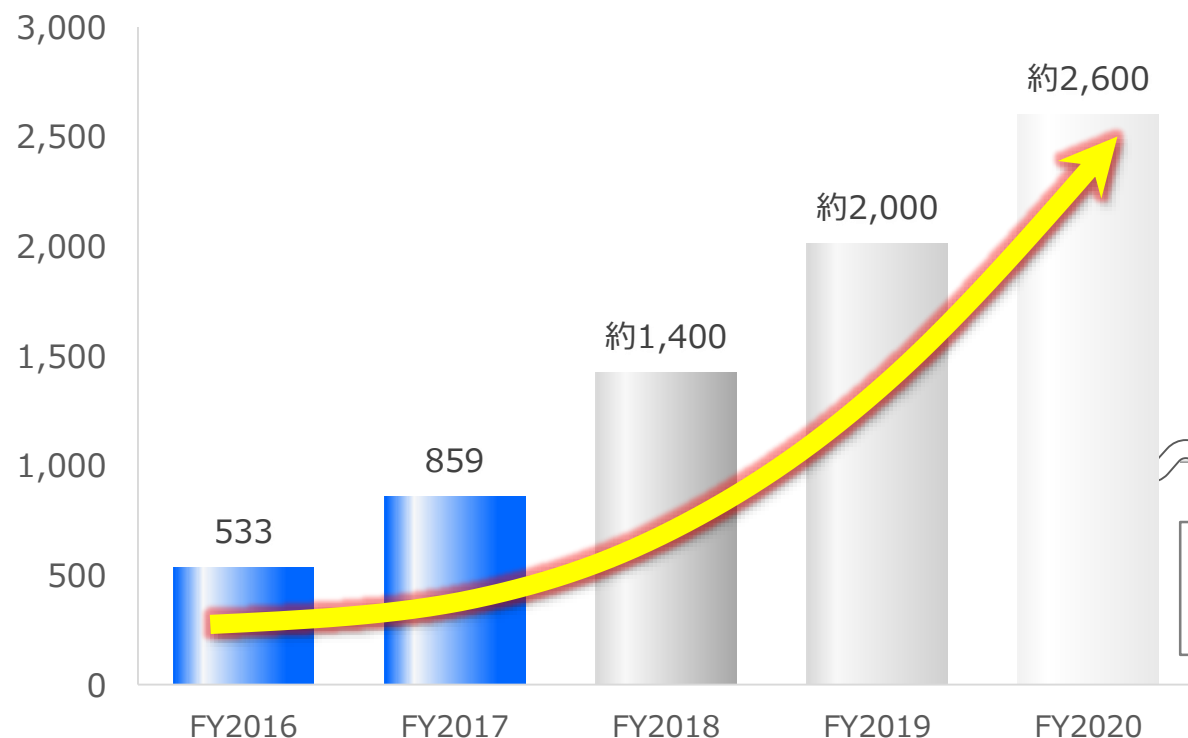


・ 物件管理、修繕が適切に行われる
= 安心できるハウスメーカー
→ サブリース問題等のトラブル回避

- アパートローン保証を中心に保証残高は増加を見込む
- リバースモーゲージ型ローン保証にも着手

信用保証残高 今後の推移

単位：億円



今年度中 日本保証が リバースモーゲージ型ローン保証

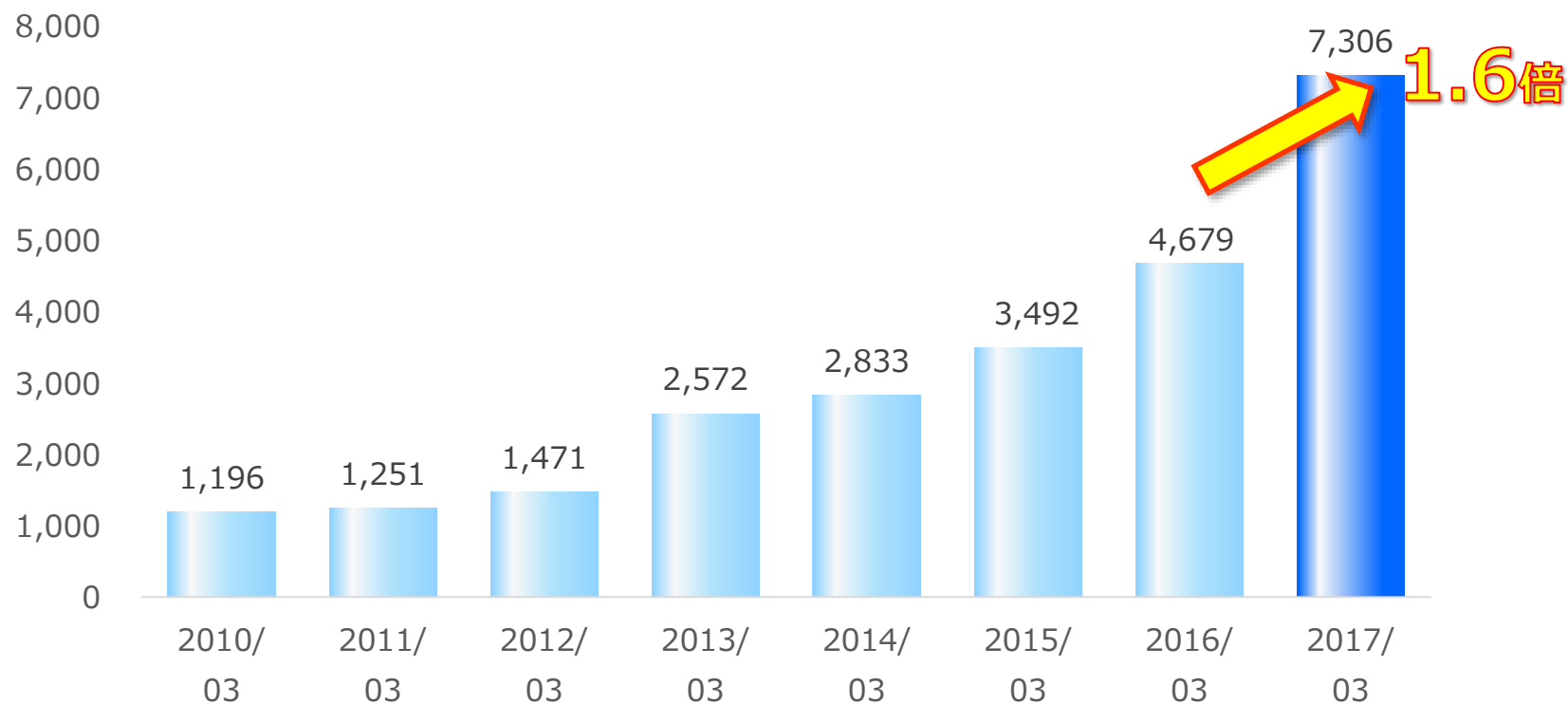
地域金融機関に
事業者ローン保証
を提供する「トラ
ストグループの戸
本保証（東京、
港）は、2016
年度内にリバース
モーゲージ型ロー
ン商品保証を始め
る。高齢者の現
引退後の生活資金
確保が課題に浮
上っているという

金融経済新聞
2017年2月20日 朝刊 3面

- 4Qでも残高約130億円のNPL債権の買取を実施
- 期末の残高は前年同期比1.6倍の7,306億円と大幅増加

請求債権残高の推移

単位：億円



3－2．韓国金融事業

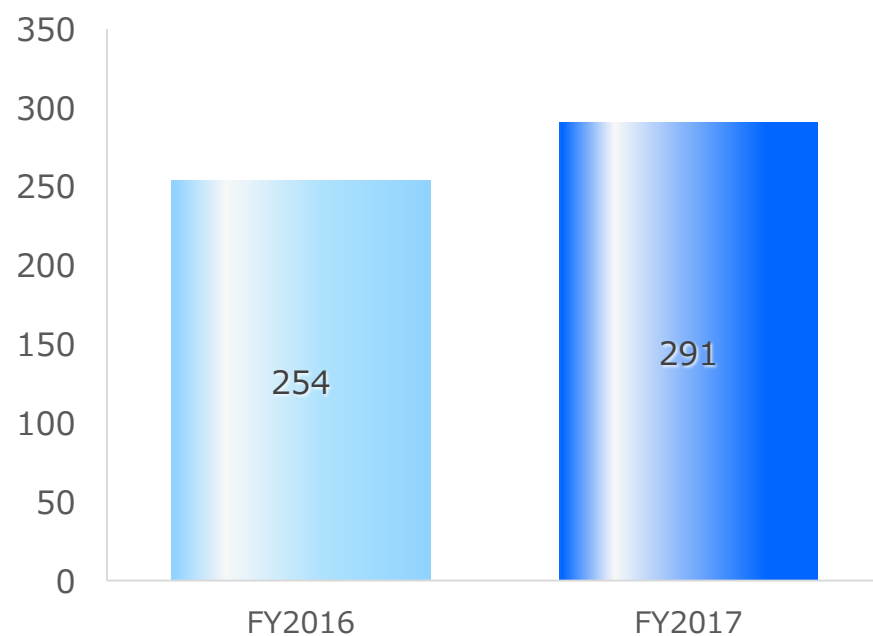
➤ 営業利益は前年同期比8倍の16億円

J-GAAP

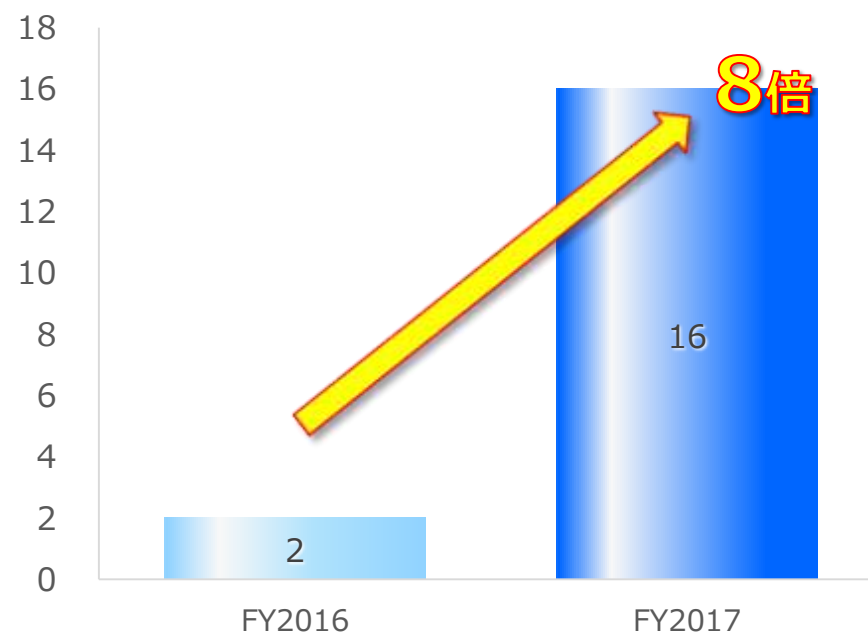
韓国金融事業

単位：億円

営業収益



営業利益

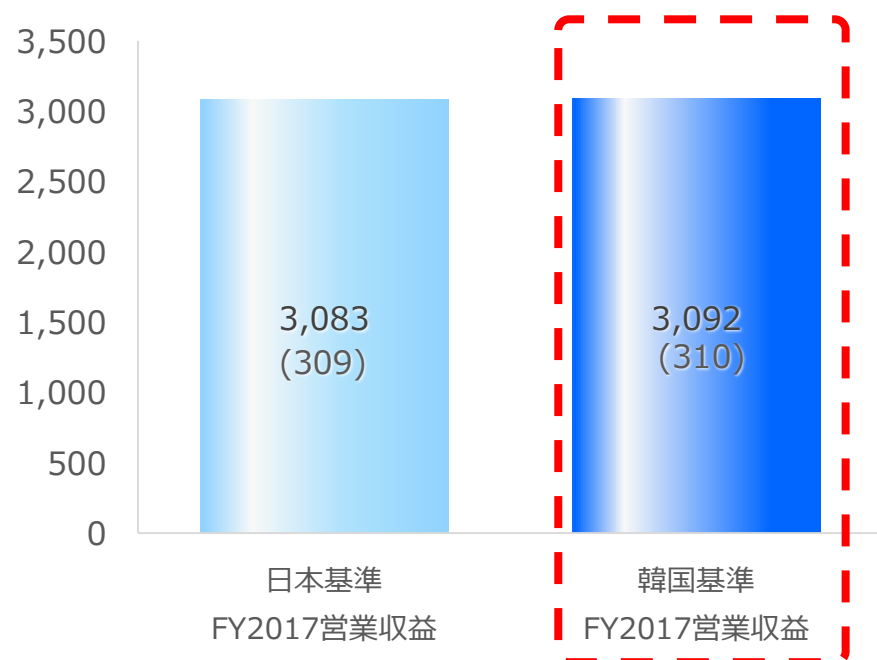


- 事業の実力値をあらわす韓国現地会計基準（K-GAAP）は、411億ウォンの営業利益を計上するまでに躍進

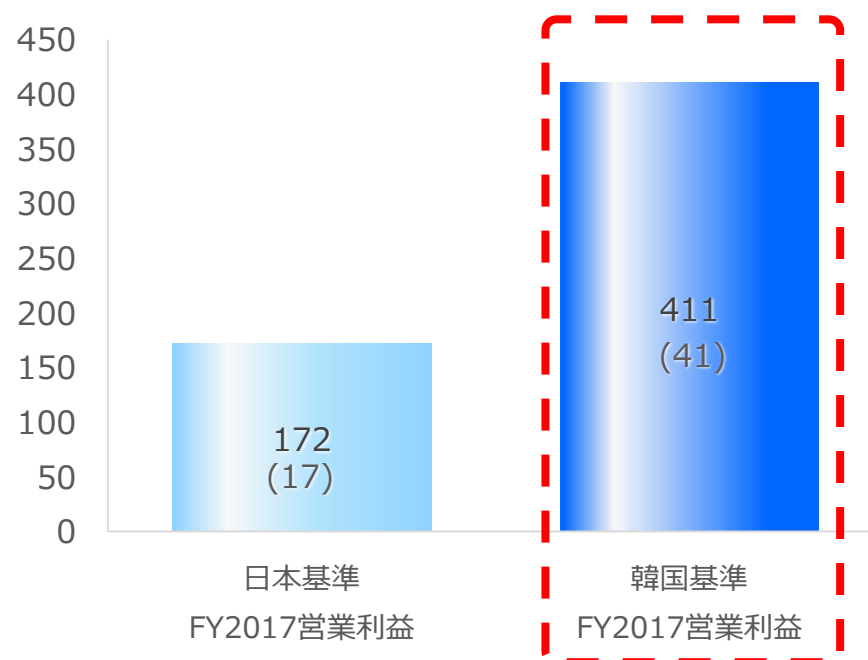
韓国金融事業

単位：億ウォン
(億円)

営業収益



営業利益



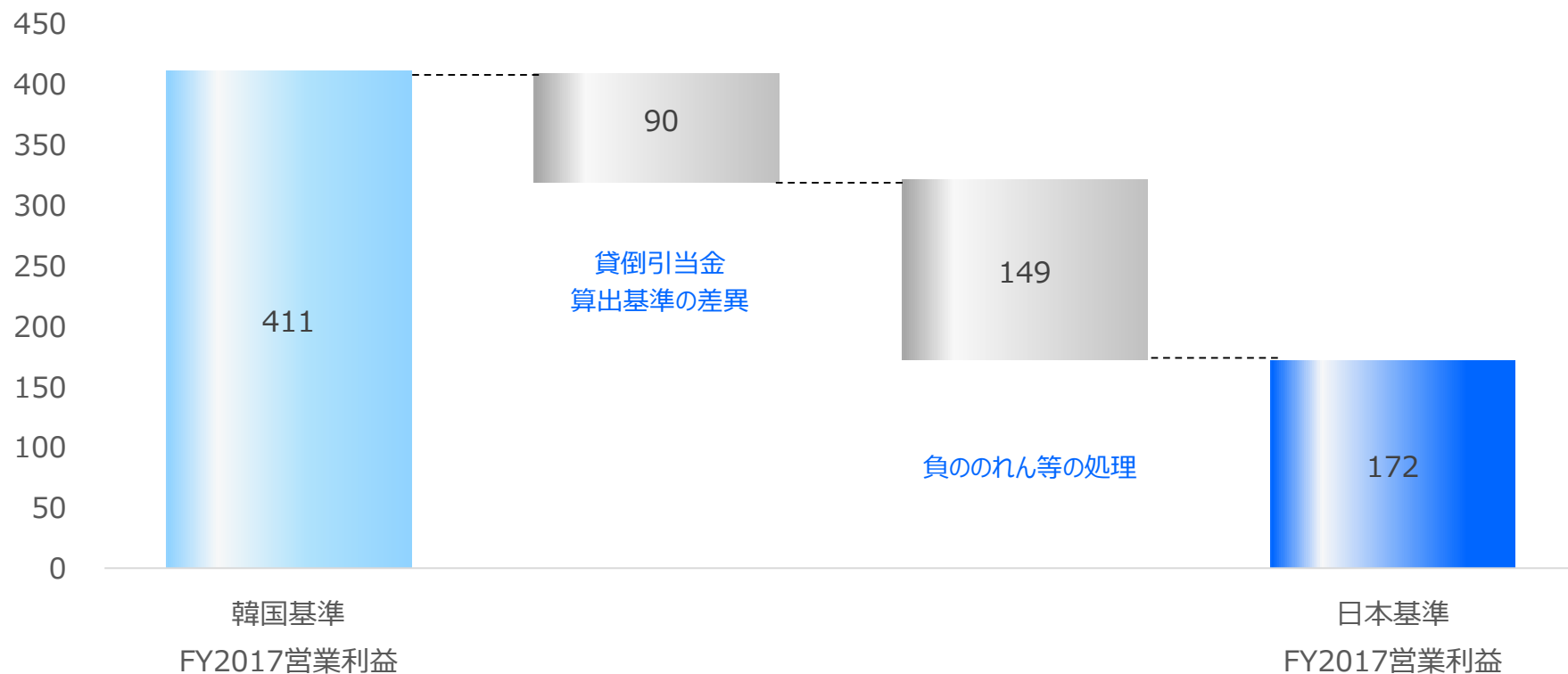
参考レート：1ウォン＝0.1004円

※韓国4社＝ J T 親愛貯蓄銀行 J T 貯蓄銀行
J T キャピタル T A 資産管理

- 貸倒引当金算出基準の差は90億ウォン
- 負ののれん等の処理の差は149億ウォン

韓国基準と日本基準の違い

単位：億ウォン

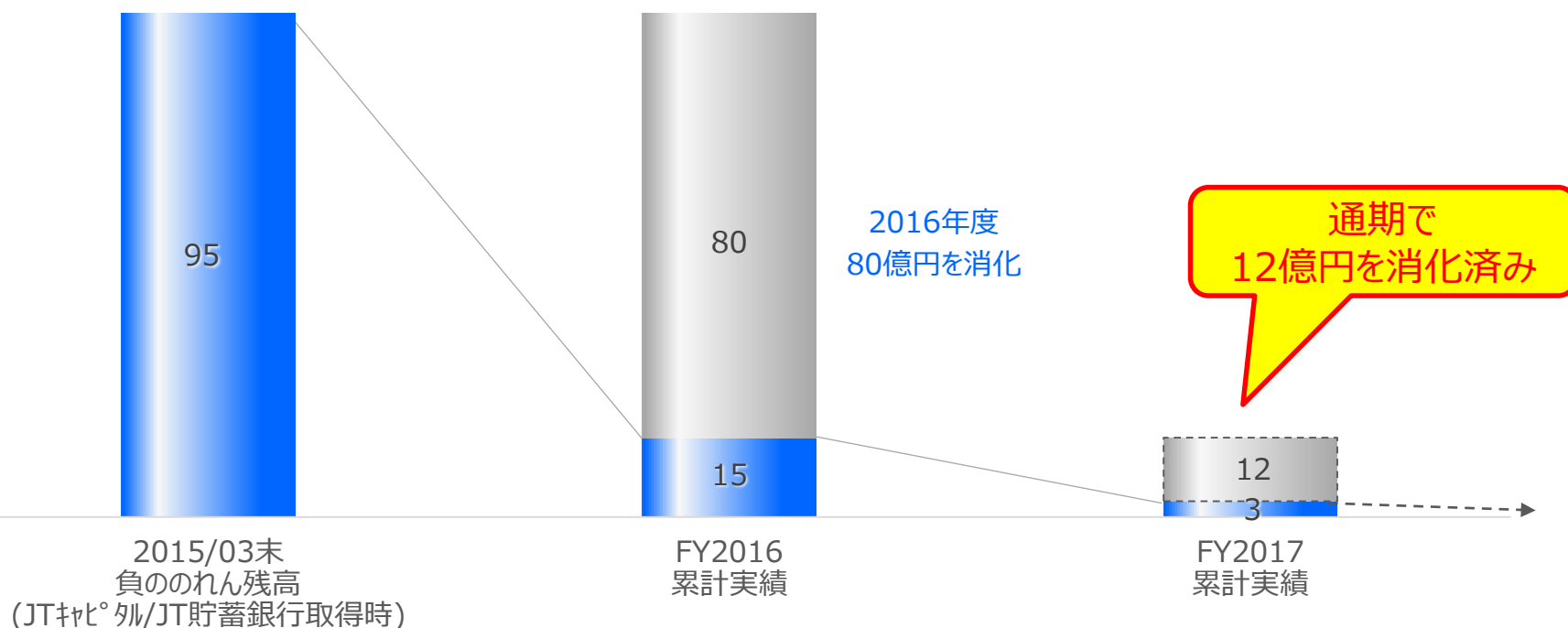


- 2017年3月期は通期で12億円を消化し、未消化残高は3億円
- 今後日本基準との差異は少なくなり、緩やかに減少する

J-GAAP

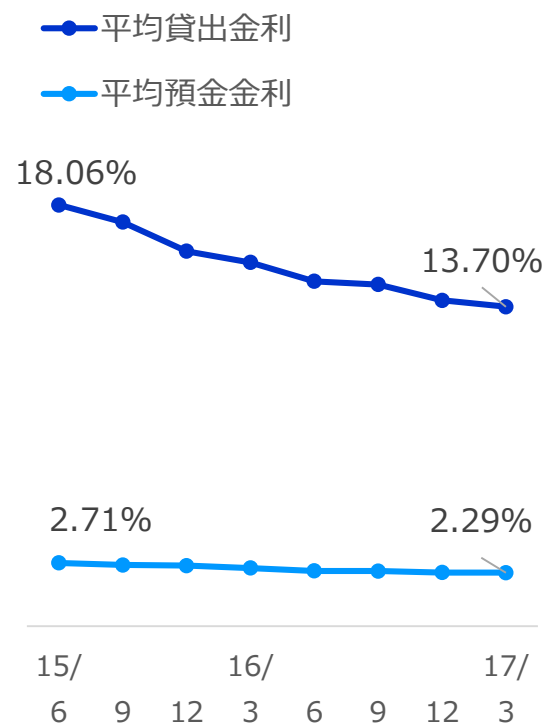
負ののれんが営業利益に与える影響

単位：億円



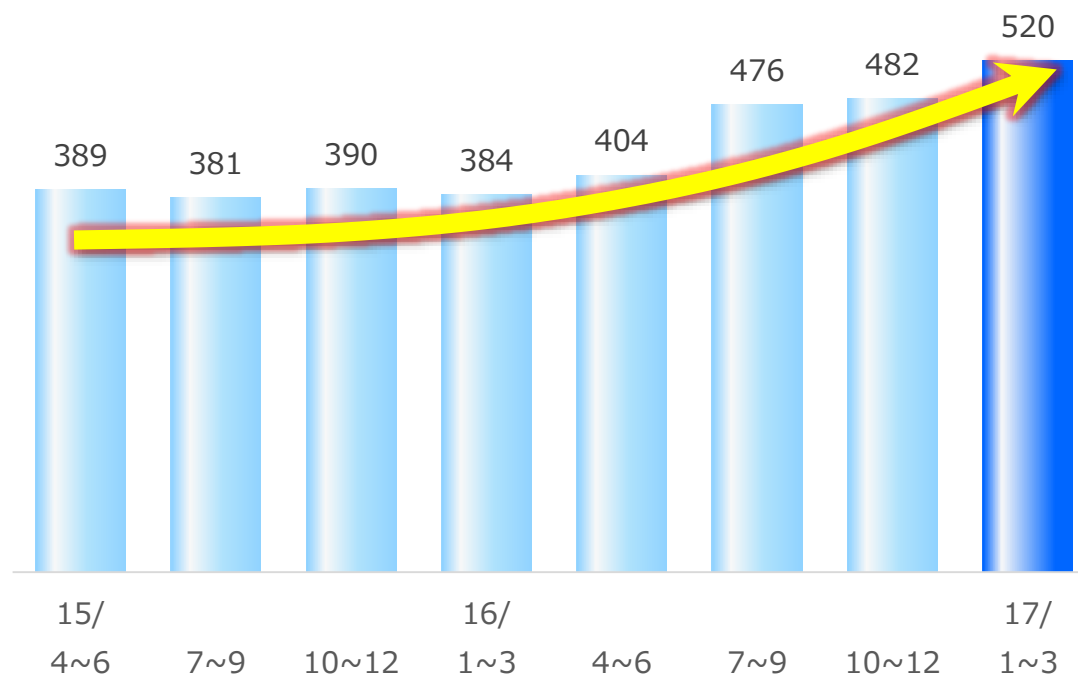
➤ アセットの増加により純金利収入が着実に増加

平均貸出金利と
平均預金金利



純金利収入

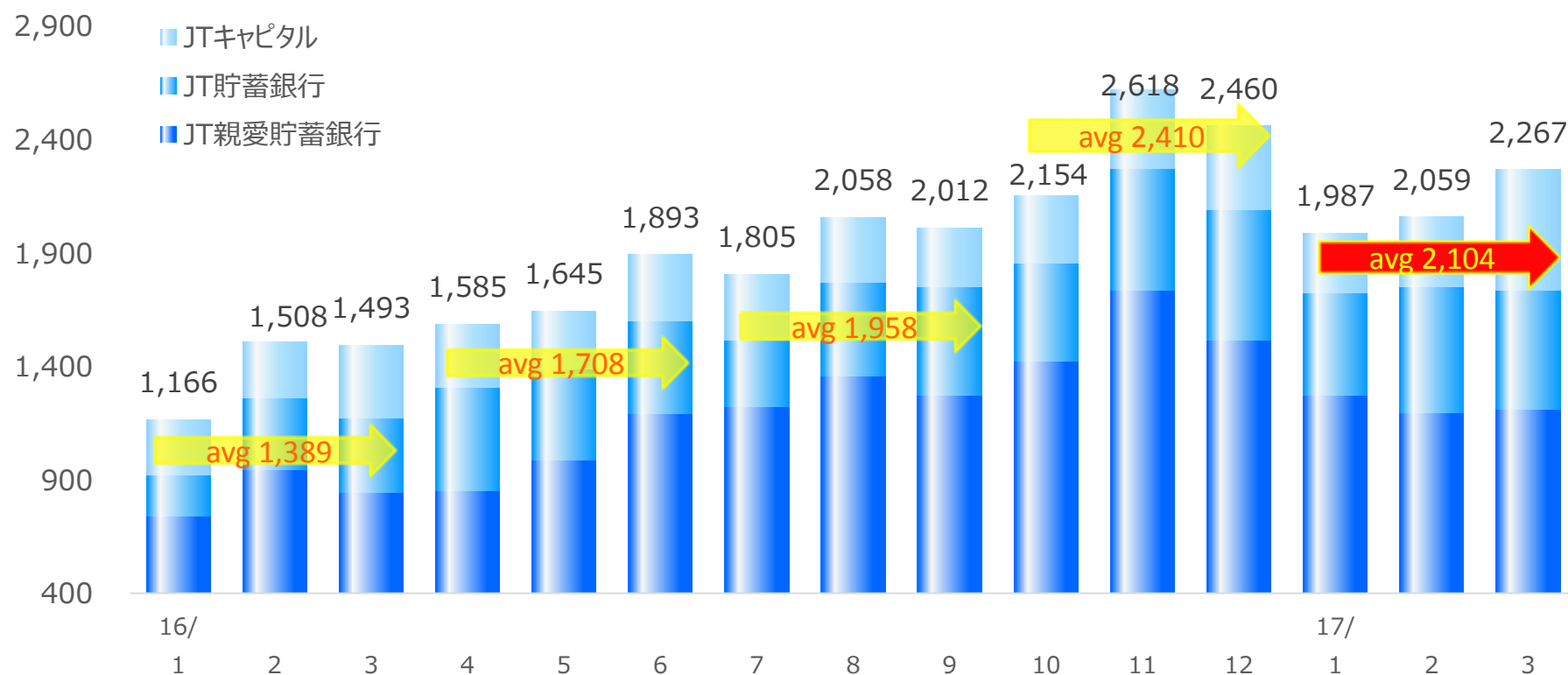
単位：億ウォン



- 経済が減速傾向にある中、与信審査を厳格化して良質なポートフォリオを獲得する

月間新規貸出金額

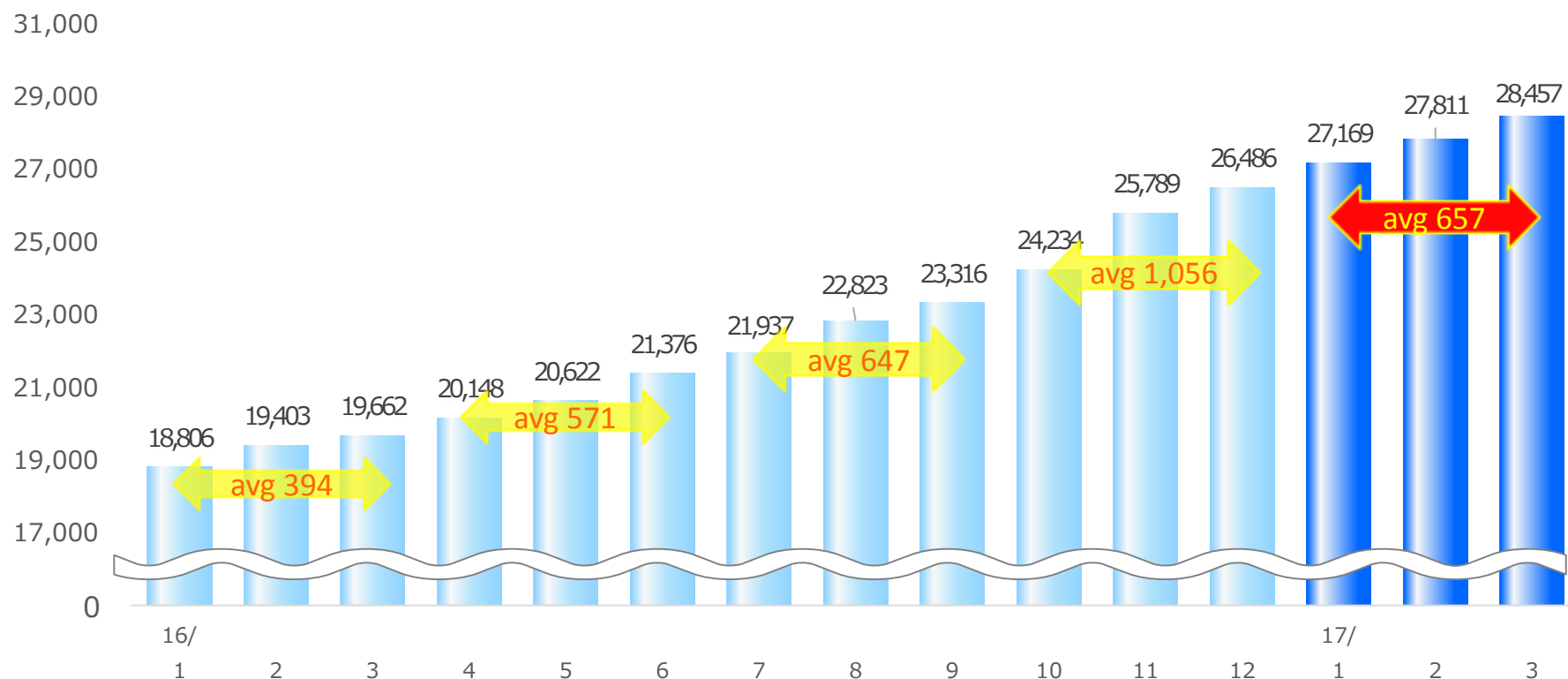
単位：億ウォン



➤ 4Qの月平均純増額は約657億ウォン

貸出資産残高推移

単位：億ウォン



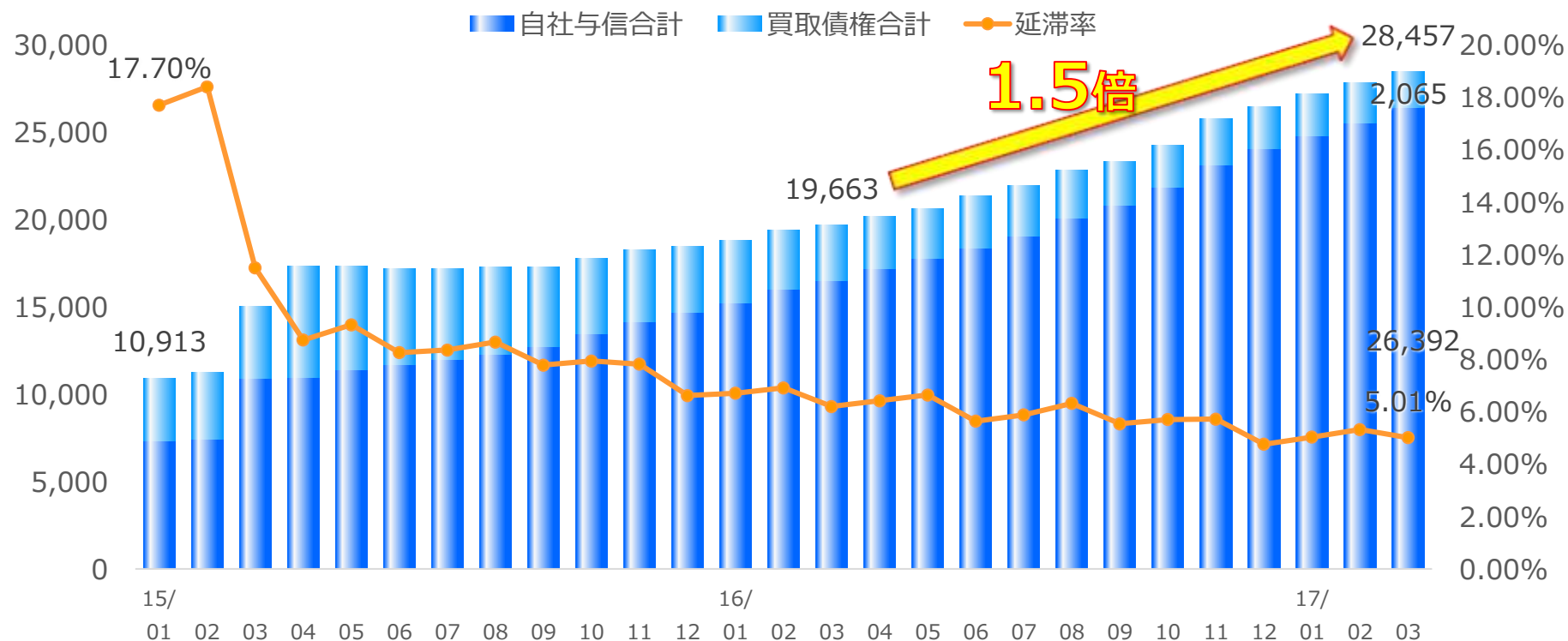
参考レート：1ウォン＝0.1004円

グラフ内矢印に記載の数値は、3ヶ月の純増額の平均値

- 自社与信の優良な債権が更に増加
- 延滞率は低位で推移
- 収益基盤は更に強固になる

貯蓄銀行/キャピタルの貸出資産残高および延滞率推移

単位：億ウォン



参考レート：1ウォン=0.1004円
 ※延滞率=30日以上延滞債権

➤ 3月30日 韓国金融当局が、総量規制と金利引き下げに関する規制を発表

「相互貯蓄銀行業監督規定」の主な改定内容

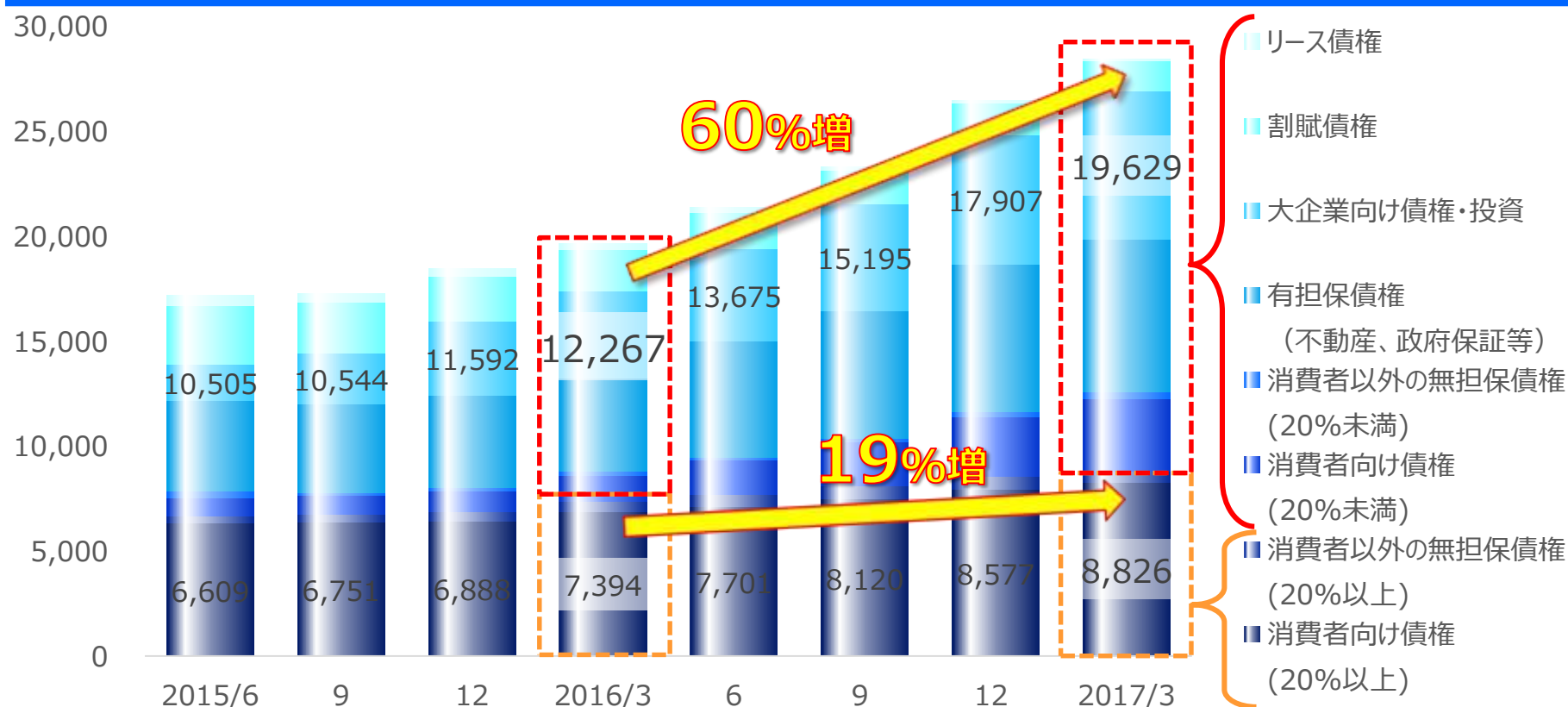
主な変更内容

- I. 貸出金利20%以上の債権の貸倒引当率を現引当率の5割増しとする
- II. 前年末対比、個人向けローン（無担保・有担保ローンとも）貸出量の制限
- III. 貸出金利20%未満の債権についても不良債権区分および貸倒引当金基準が厳格化

- リスクの低い中・低金利帯の債権は60%増
- リスクの高い高金利帯の債権は19%増
- 貯蓄銀行の社会的信用度が高まり、大企業向け融資や優良な投資案件が増加中

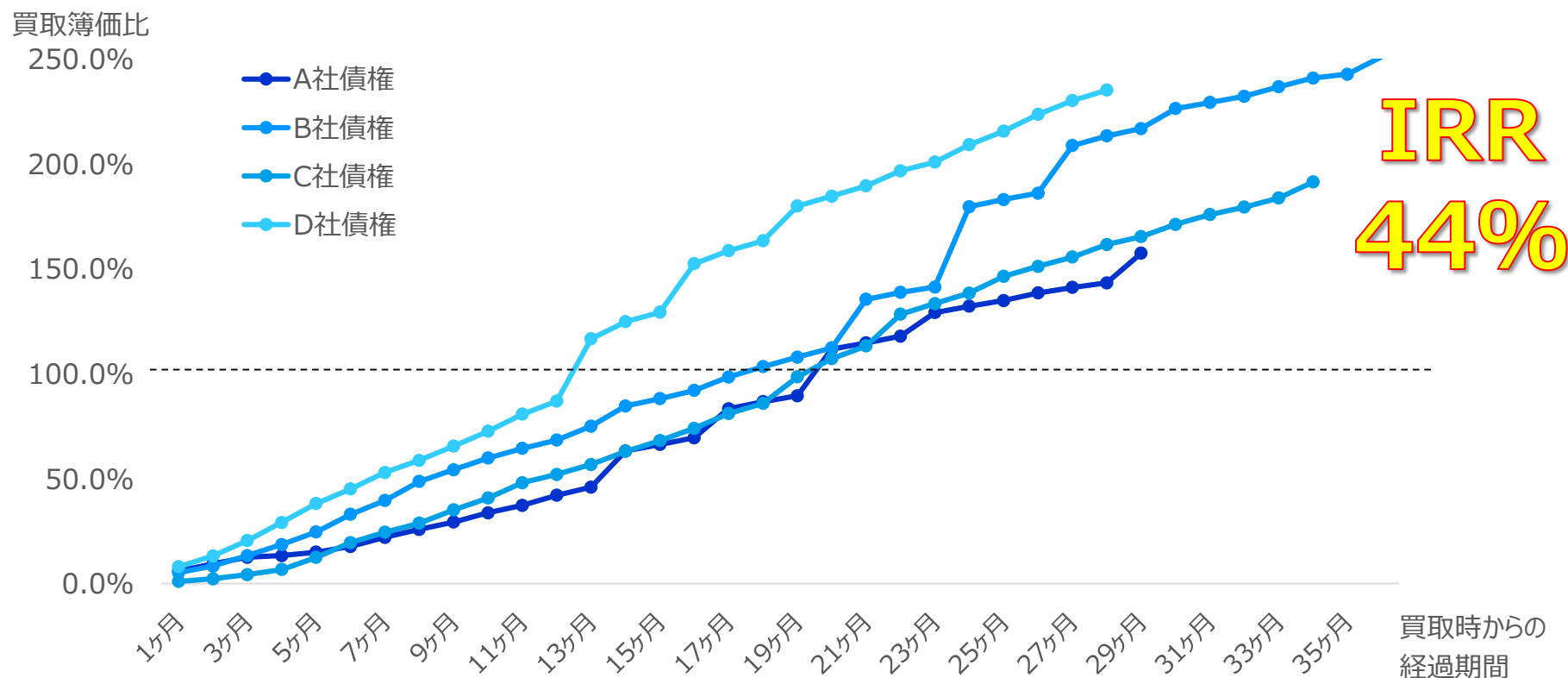
債権ポートフォリオ（金額ベース）

単位：億ウォン



- TAAにおける買取債権の回収は買取後2年以内で簿価回収が実現（12ヶ月～20ヶ月）
- 延滞債権のIRRは44%と高い投資リターン率

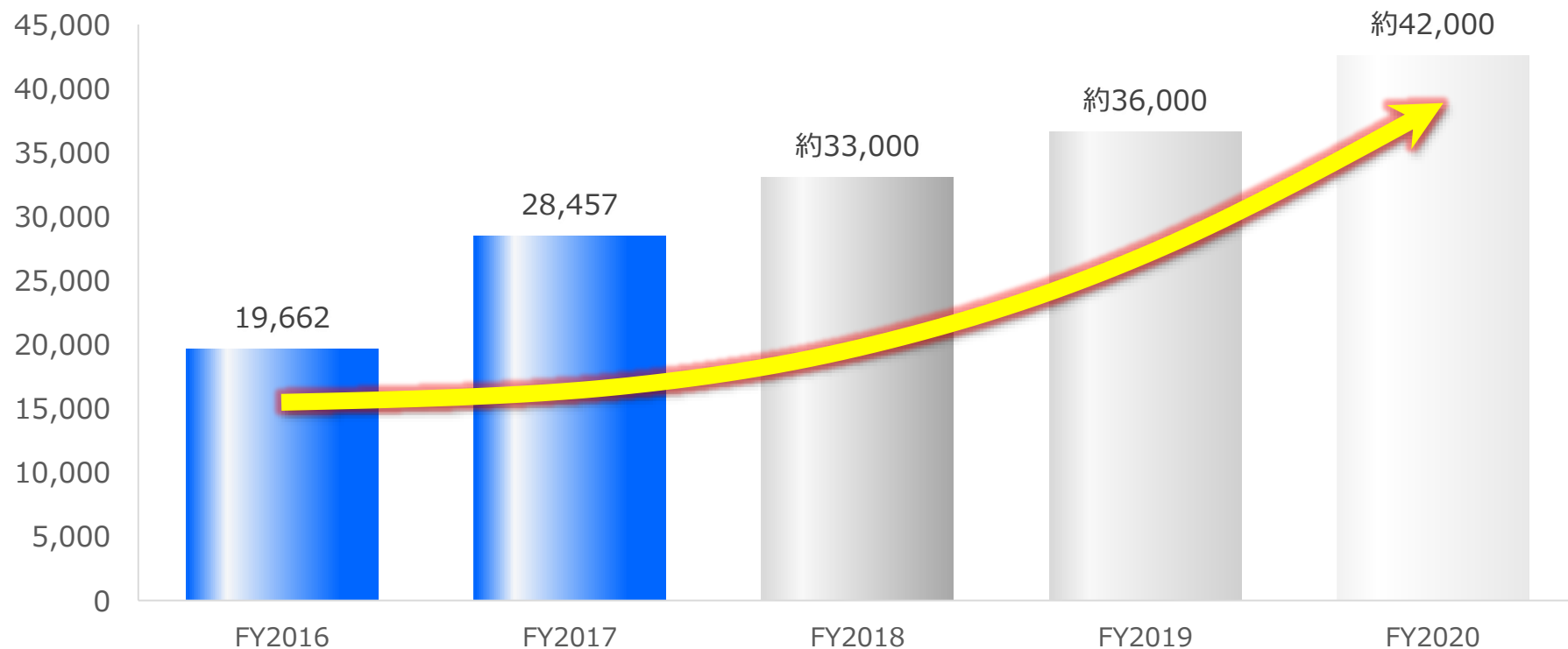
買取債権ごとの回収実績率（回収額/簿価）



➤ 平均残高が高まることでの収益増

韓国金融事業の貸出残高 今後の推移イメージ

単位：億ウォン

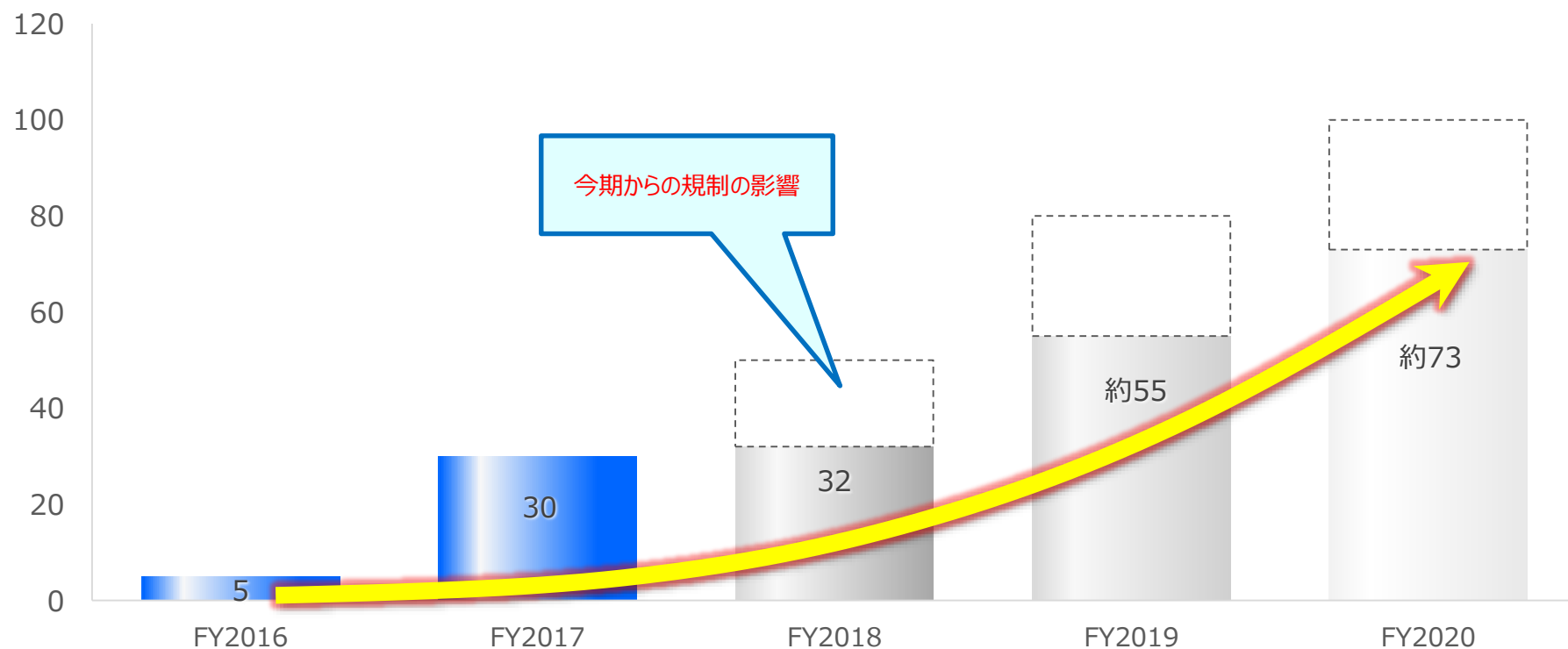


- 不良債権回収ビジネスと、ポートフォリオ入れ替えにより優良体質になったアセットが利益の押し上げ要因に

IFRS（未監査）

3ヶ年の営業利益イメージ

単位：億円



3－3．東南アジア金融事業

➤ 2017年3月期において期ずれを解消し、当期は15ヶ月決算を実施

■ 東南アジア金融事業 業績の取込み期間

FY2017	1Q	2Q	3Q	4Q		通期
J-GAAP	2016/1~3	2016/4~6	2016/7~9	2016/ 10~12	2017/ 1~3	2016/1 ~2017/3
営業収益	35億円	33億円	36億円	35億円	38億円	177億円
営業利益 (うち のれん)	-6億円 (4.5億円)	-54億円 (4.5億円)	-5億円 (4.5億円)	-10億円 (4.5億円)	-11億円 (4.5億円)	-86億円 (22億円)

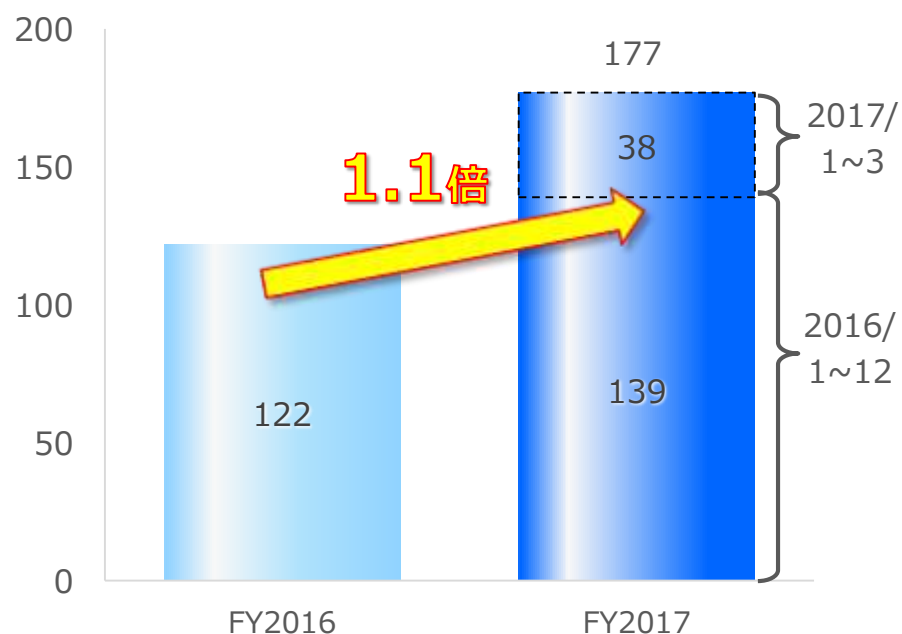
- 営業収益は前年同期比1.1倍増の139億円
- 営業利益は2Qで計上した過去の負の遺産に対する一過性の貸倒引当金46億円および15ヶ月決算による4.5億円分ののれんの影響により減益

J-GAAP

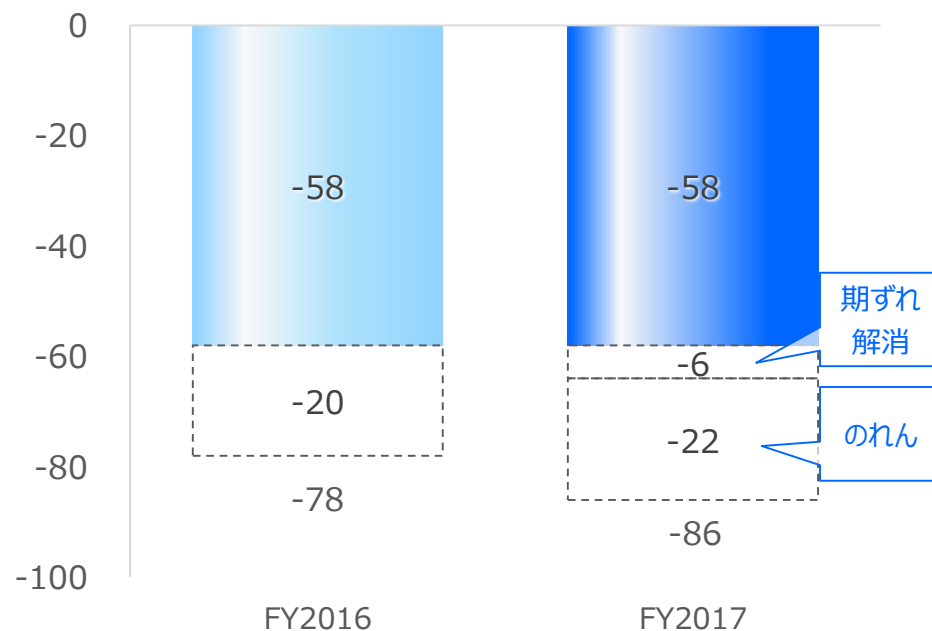
東南アジア金融事業

単位：億円

営業収益



営業利益

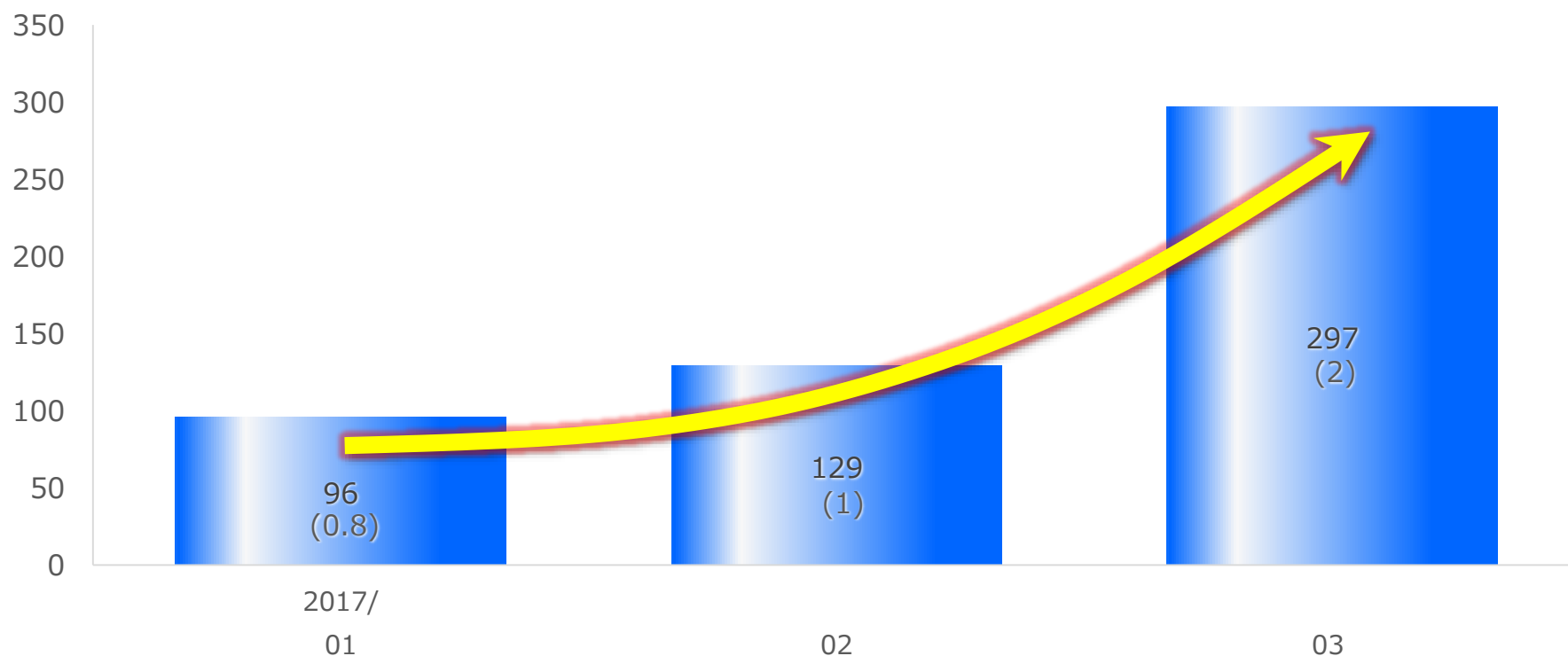


➤ 現地基準での純利益は着実な黒字化が図れ、通期計画24億円に向け進捗

現地基準（未監査）

Jトラスト銀行インドネシアの直近純利益（月次）

単位：億ルピア
（億円）

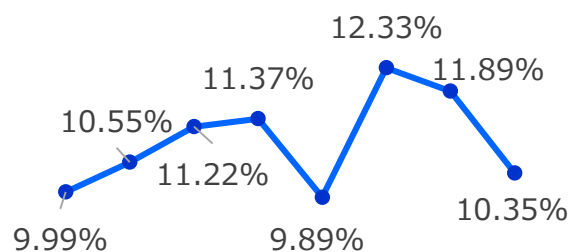


参考レート：1ルピア=0.0084円

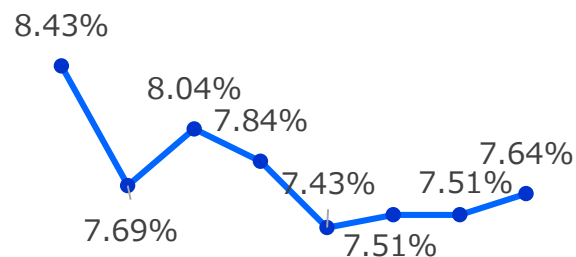
※ 月次実績はJトラストインドネシア銀行のホームページよりご覧いただけます

➤ 債権ポートフォリオの入れ替えが進み、純金利収入は着実に増加

平均貸出金利

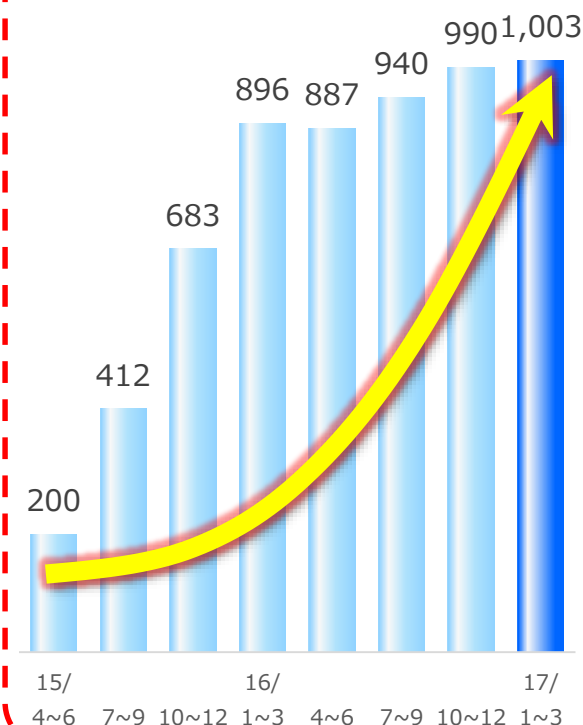


平均預金金利



純金利収入

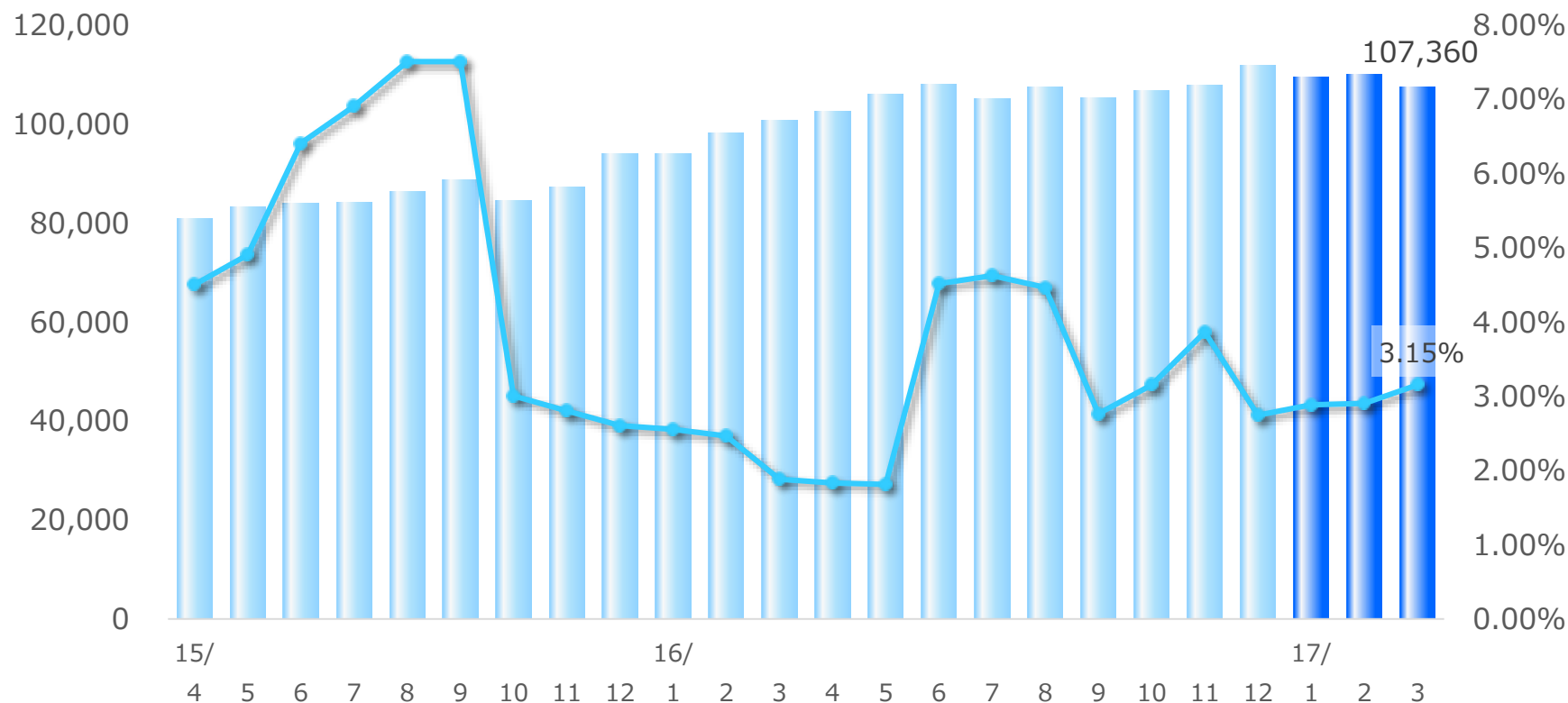
単位：億ルピア



- 大口債権を減らし小口債権を増加させることで、質の向上を実現
- ポートフォリオの入れ替えが進み、不良債権比率は低位安定

貸出資産残高および不良債権比率の推移

単位：億ルピア



- 2016年9月末時点約1,300名の正社員を3月末には789名まで削減
- 店舗は18店舗廃止し、41店舗となる
- 今期中に正社員700名へ

Jトラスト銀行 ジャカルタ近郊の拠点マップ

2017年3月末現在



オープン予定のカラワンカフェ

- TVCMを始めとしたマスメーケティング活動の開始で「攻め」の営業に
- 広告費5億円を投じてなお24億円の黒字を見込む

新イメージ広告と撮影風景

ポスター



Pay TV



ラッピング広告



Gambir駅 柱広告

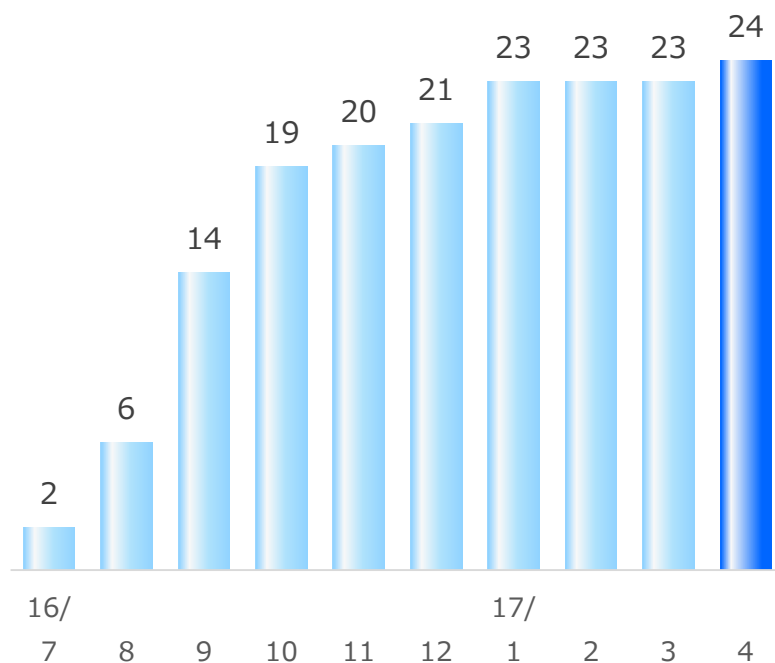


電車内広告



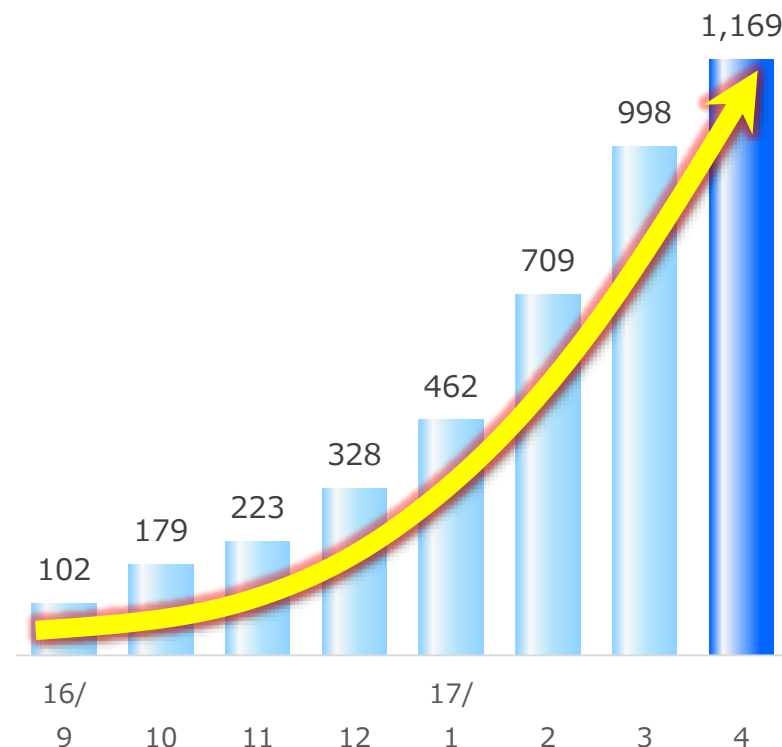
- 2016年9月に開始したGLFIの残高は1,000億ルピアを突破
- 4月末時点での延滞債権はゼロ

POS店舗数の実績



GLFI残高

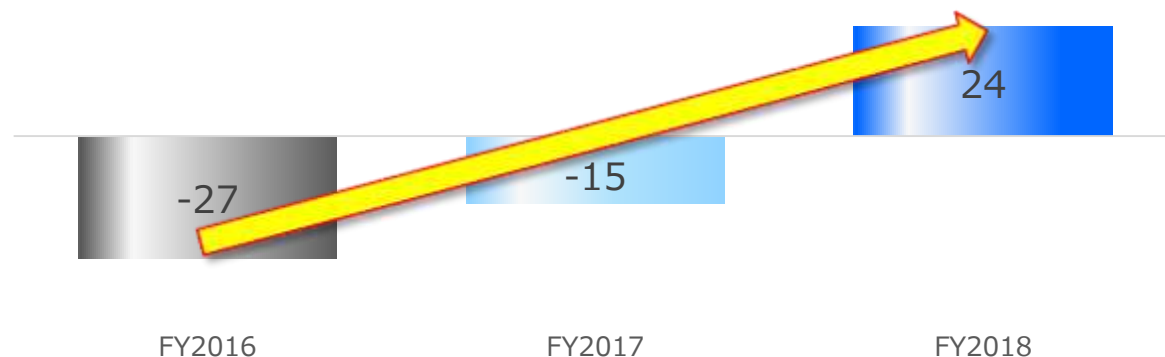
単位：億ルピア



- ポートフォリオの入れ替えが進み、人員削減等によるコスト削減効果等で事業の利益は着実に増加

単位：億円

	FY2016	FY2017	FY2018（計画）
営業損益（A）	-78	-83	6
過去の負の遺産に対する 貸倒引当金の追加計上（B）	32	46	-
のれんの影響（C）	19	22	18
事業の利益(A+B-C)	-27	-15	24



3－4．投資事業

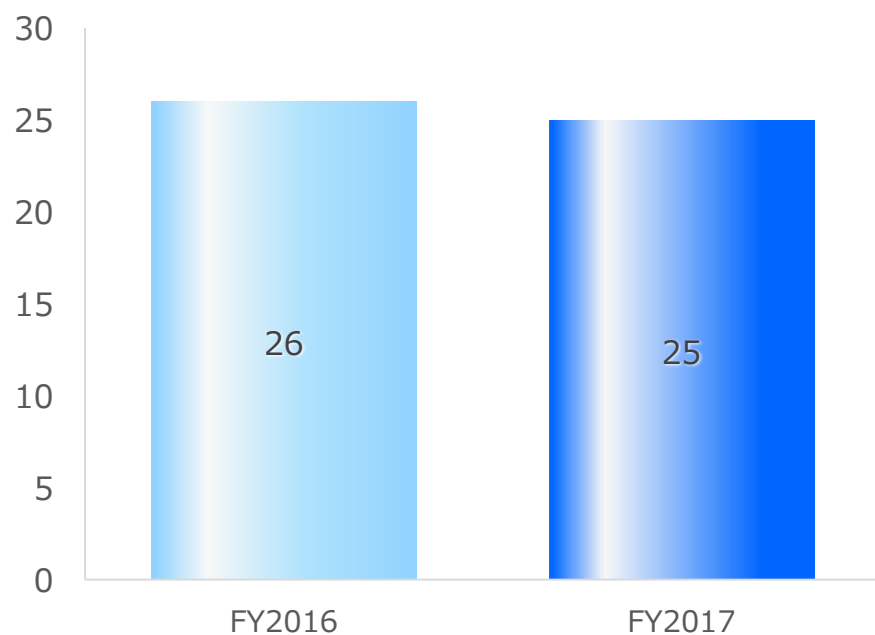
➤ GL社転換社債の新株予約権部分の評価損失計上により減益

J-GAAP

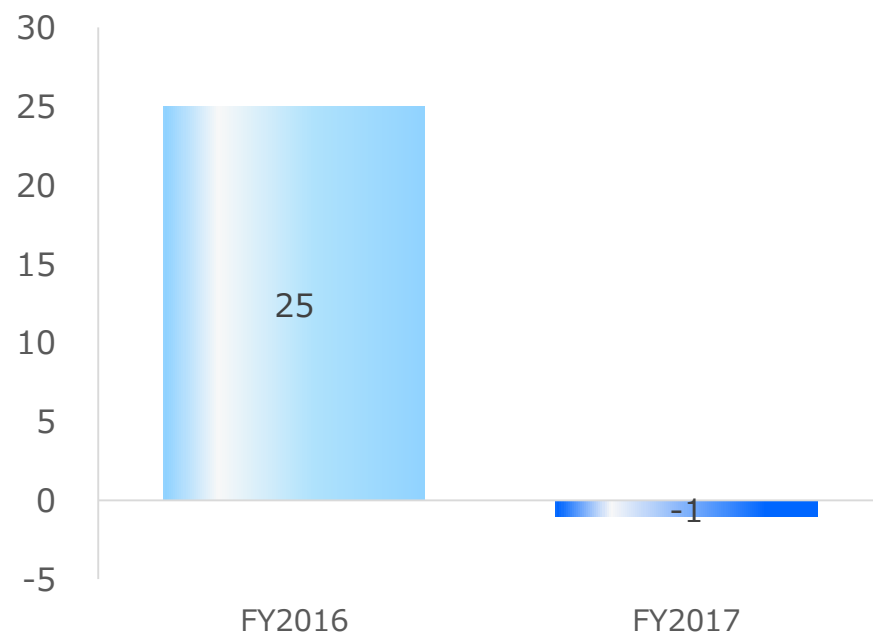
投資事業

単位：億円

営業収益

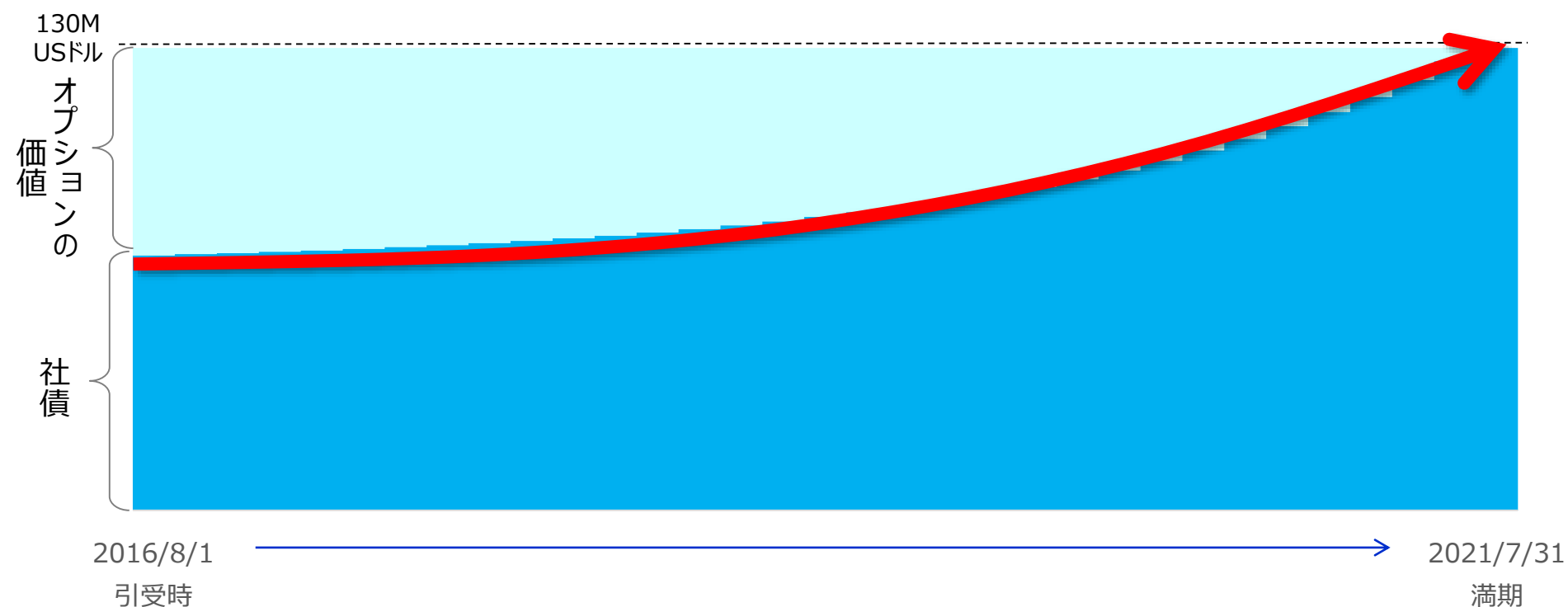


営業利益



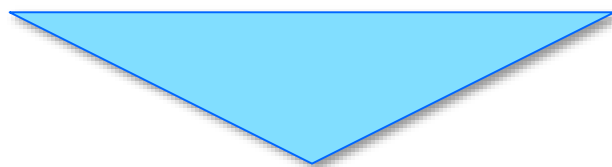
- GL社転換社債のオプション部分の価値は満期に近づくにつれ、ゼロに近づく
- 満期時には社債130Mオプションゼロとなるため、社債価値を棄損することはない

転換社債の評価について（イメージ）



➤ Jトラストアジアが保有するGL社の株式は6.43%

- 転換株式数： 98.1百万株
- 転換時簿価： 53億49百万円（2015年12月30日 1株 = 18.0バーツ）
- 現在の簿価： 69億71百万円（2017年3月31日 1株 = 21.8バーツ）



単純差額：約16億円→「**含み益**」

参考：GL社転換社債引き受けについて

1. 2015年5月 30,000,000米ドル 利率：5% 引き受け後 2015年12月30日株式転換
2. 2016年8月 130,000,000米ドル 利率：5% 引き受け済み
3. 2017年3月 50,000,000米ドル 利率：5% 引き受け済み

3－5. 非金融事業

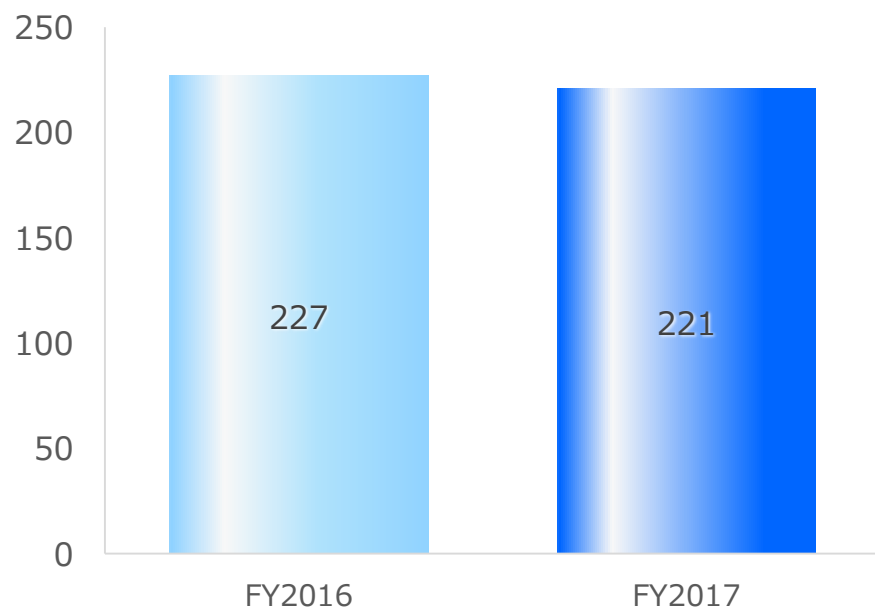
➤ 営業利益は前年同期比3倍の3億円

J-GAAP

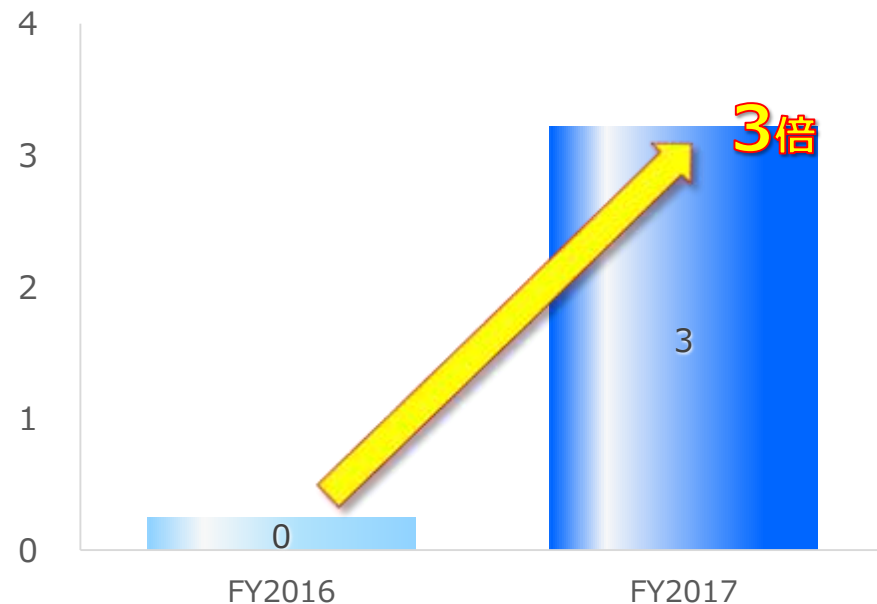
非金融事業

単位：億円

営業収益



営業利益

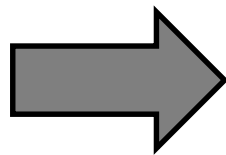


4. 2018年3月期 通期計画

- 2018年3月期は第1四半期よりIFRS開示が可能に



~2017.03



2017.04~

➤ 営業収益、営業利益共に増収増益を計画

IFRS（監査前）

2018年3月期（第42期）計画

	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画	差異
営業収益	791億円	894億円	+ 103億円
営業利益	9億円	100億円	+ 91億円
当期利益	-22億円	81億円	+ 103億円

- 東南アジア金融事業も黒字化を見込む
- 投資事業におけるGL社の株価は23.5THBを前提とする

IFRS（監査前）

2018年3月期（第42期）セグメント収益・利益

2018年3月期 計画	営業収益	営業利益	備考
国内金融事業	107億円	46億円	・継続して安定的に利益計上
韓国金融事業	341億円	32億円	・のれんの影響がほぼ無くなり、実力値が営業利益に反映される
東南アジア金融事業	167億円	24億円	・過去の負の遺産に対する一過性の貸倒引当金もなくなり、事業の実力が試される時に
非金融事業	245億円	8億円	・不動産事業および総合エンターテインメント事業の利益が増加
投資事業	27億円	25億円	・GL株価は23.5THBで試算 株価上昇すれば利益に大きく寄与
その他事業 / 本社および連結調整	5億円	-36億円	・本社費用の管理を強化
合計	894億円	100億円	

5. 今後の成長に向けた取り組み

- 監査法人変更にともなう影響
- グループリースの株価暴落

➤ 2018年3月期 3つの取り組み

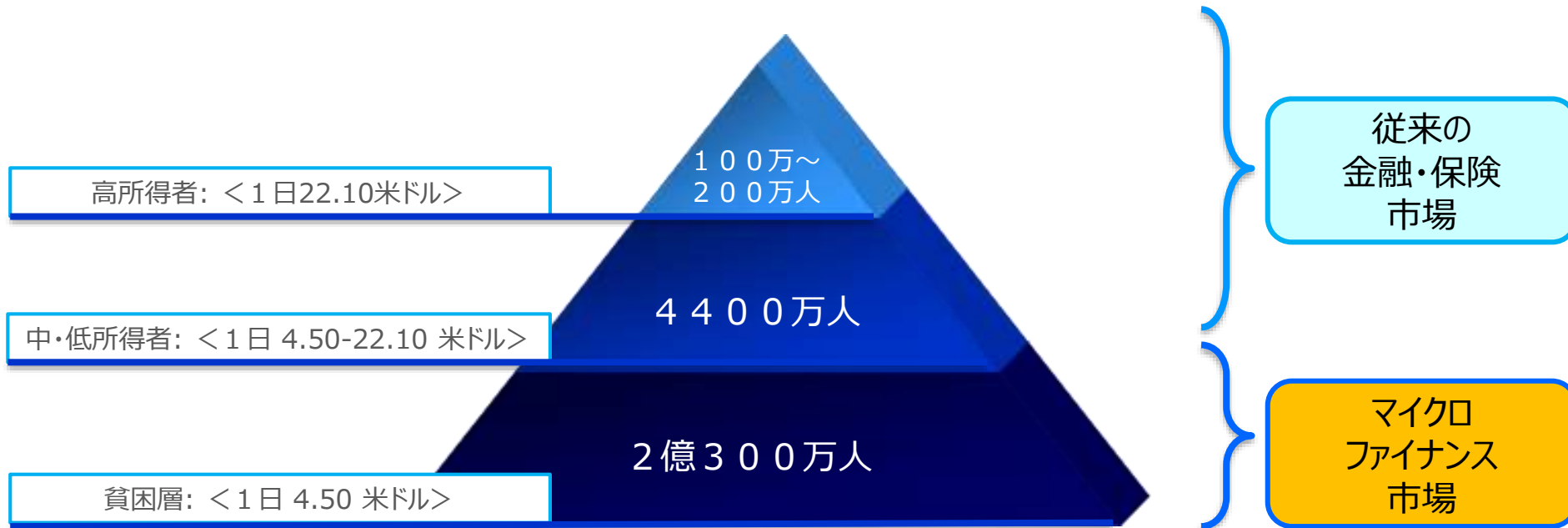
- ・ 国際会計基準・IFRSへの移行
- ・ 設立以来最高益の計上
- ・ 東証1部指定の実現



➤ 東南アジア金融事業の拡大



インドネシアにおける1日当たりの平均所得



2億300万人、つまりインドネシア人の81.5%が経済ピラミッドの底辺にいる。
この層はマイクロファイナンスを必要としており、マイクロファイナンス市場は、潜在性が高い。

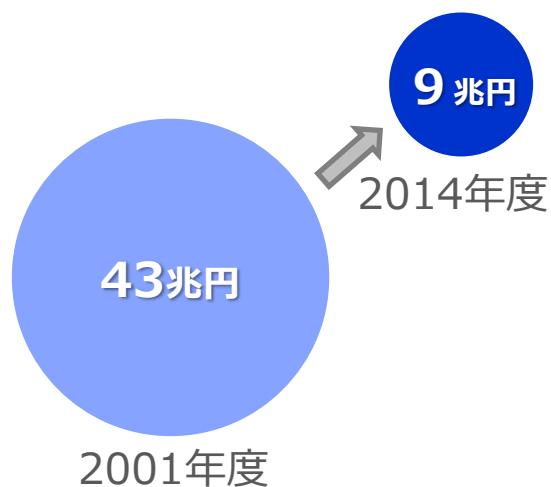
APPENDIX

投資情報誌に掲載「3つの理由で日本は成長する！」

1 「不良債権」や「過剰設備」を大幅に減らしている

成長の重しを取り除かれ
企業の投資余力が拡大

不良債権

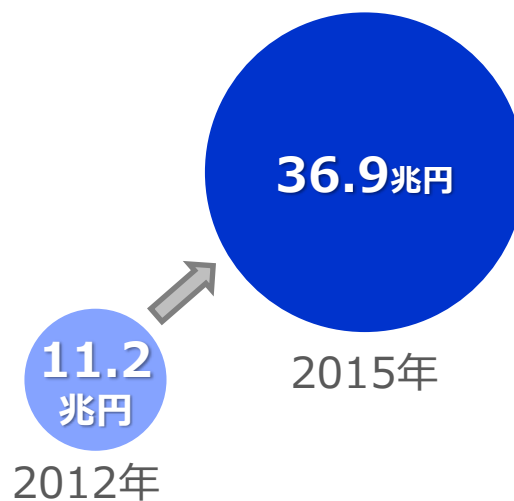


金融庁「金融再生法開示債権の状況」より

2 成長性の高い「海外への投資」を増やしている

海外企業へのM&Aが
3年間で3.3倍に！

対外証券投資

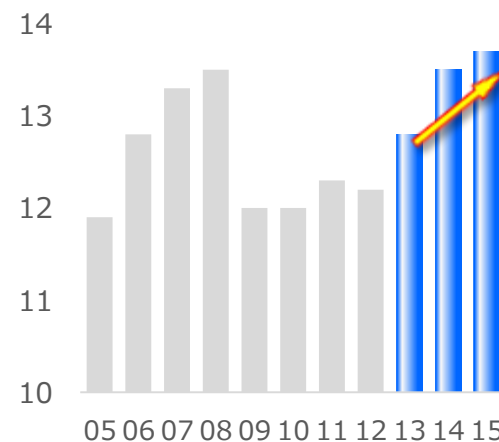


財務省「国際収支統計」より

3 一時期落ち込んだ「研究開発費」も回復させた

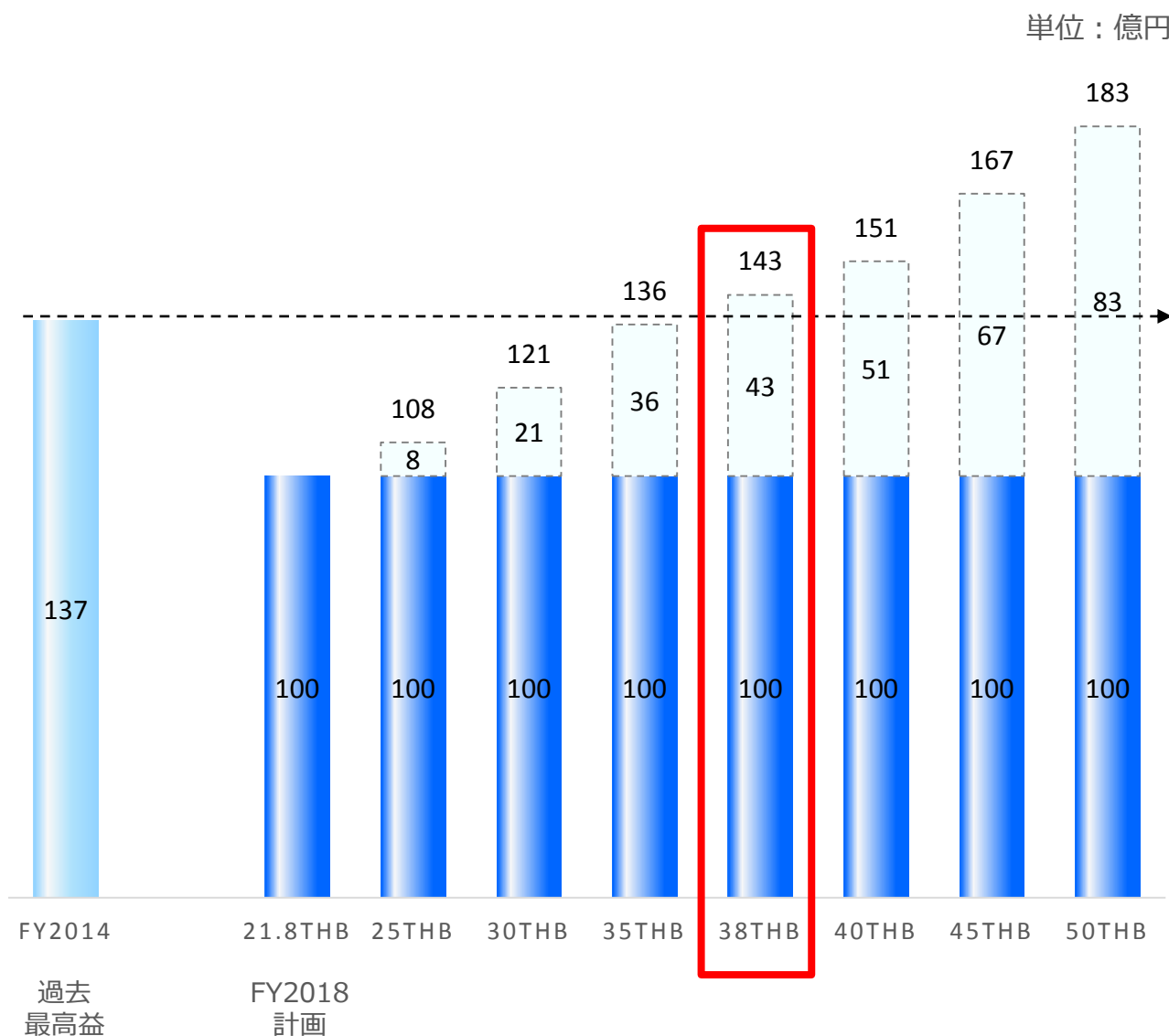
技術革新の源泉に投資し
新たなビジネスの種をまく

企業の研究開発費



総務省「科学技術研究調査」より

APPENDIX 今期の業績イメージについて



GL株価 (THB)	新株予約権部分の評価損益 (億円)
50	+83
45	+67
40	+51
38	+43
35	+36
30	+21
25	+8
21.8	±0
20	-4
15	-15
10	-24

※ワラント部分は含まず

J-GAAP

2018年3月期（第42期）計画

	2017年3月期 実績	2018年3月期 計画
営業収益	850億円	901億円
営業利益	-57億円	80億円
当期利益	-98億円	61億円

J-GAAP

2018年3月期 セグメント別収益・利益

2018年3月期 計画	営業収益	営業利益
国内金融事業	113億円	47億円
韓国金融事業	343億円	34億円
東南アジア金融事業	168億円	6億円
非金融事業	246億円	8億円
投資事業	22億円	20億円
その他事業 /本社および連結調整	5億円	-36億円
合計	901億円	80億円

J-GAAP

営業収益（計画対比）

	通期計画	実績	差異	達成率
国内金融事業	107億円	109億円	+2億円	102%
韓国金融事業	312億円	291億円	-21億円	93%
東南アジア金融事業	130億円	177億円	+47億円	136%
投資事業	72億円	25億円	-47億円	34%
非金融事業	260億円	221億円	-39億円	85%
その他	6億円	24億円	+18億円	400%
合計	889億円	850億円	-46億円	95%

※非金融事業：不動産事業および総合エンターテインメント事業

※その他：商業施設建築事業、システム事業等

J-GAAP

営業利益（計画対比）

	通期計画	実績	差異	要因
国内金融事業	42億円	46億円	+ 4億円	－
韓国金融事業	31億円	16億円	-15億円	・DH貯蓄銀行の未取得 ・金融当局からの規制強化による影響
東南アジア金融事業	-65億円	-86億円	-21億円	・期ずれ解消により15ヶ月決算 のれん 4.5億円を計上
投資事業	55億円	-1億円	-56億円	・GL社の株価下落
非金融事業	4億円	3億円	-1億円	・ハイレイツエンタテインメントの計画未達
その他	-25億円	-35億円	-10億円	・本社費用（弁護士/監査法人費用/ 人件費/株主優待費用等）
合計	42億円	-57億円	-99億円	

※非金融事業：不動産事業および総合エンターテインメント事業
 ※その他：商業施設建築事業、システム事業、本社費用等

IFRS（未監査）

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	差異
営業収益	746億円	791億円	+45億円
営業利益	22億円	9億円	-13億円
親会社の所有者に帰属する 当期利益	-2億円	-22億円	-20億円

IFRS（未監査）

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	差異
国内金融事業	94億円	98億円	+4億円
韓国金融事業	255億円	279億円	+24億円
東南アジア金融事業	128億円	142億円	+14億円
投資事業	26億円	25億円	-1億円
非金融事業	227億円	221億円	-6億円
その他	16億円	24億円	+8億円
合計	746億円	791億円	+45億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンターテインメント事業
 ※2016年3月期の実績値は当時決算説明会資料に掲載した数値

APPENDIX セグメント営業利益（前年同期比）

IFRS（未監査）

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	差異
国内金融事業	43億円	55億円	+12億円
韓国金融事業	5億円	30億円	+25億円
東南アジア金融事業	-17億円	-42億円	-25億円
投資事業	27億円	-1億円	-28億円
非金融事業	-3億円	5億円	+2億円
その他	-33億円	-38億円	-5億円
合計	22億円	9億円	-13億円

※非金融事業：不動産事業および総合エンターテインメント事業

※その他：本社・システム・連結調整等

※2016年3月期の実績値は当時決算説明会資料に掲載した数値

APPENDIX 月次データ推移 2015.04~2017.03 « 速報値 »

単位: 未満切り捨て

■ 国内金融事業

単位: 億円

日本保証		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
債務保証残高	2016年度	367	374	384	392	398	407	424	435	453	466	502	533
	2017年度	548	558	569	597	624	649	683	712	763	774	803	859
うち、アパートローン残高	2016年度	6	7	14	20	21	28	38	48	63	77	92	121
	2017年度	145	156	186	212	240	264	287	317	373	386	408	472

■ 韓国金融事業

単位: 億ウォン

韓国金融事業		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合 計	2016年度	17,376	17,340	17,175	17,212	17,267	17,296	17,801	18,291	18,480	18,806	19,403	19,662
	2017年度	20,148	20,622	21,376	21,936	22,823	23,315	24,234	25,789	26,485	27,169	27,811	28,457

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
銀行業における貸出金残高	JT親愛貯蓄銀行	2016年度	11,027	10,814	10,674	10,762	10,723	10,705	11,049	11,434	11,524	11,715	12,085
		2017年度	12,265	12,494	11,815	13,215	13,806	14,232	14,919	16,215	16,249	16,678	17,157
	JT貯蓄銀行	2016年度	2,310	2,426	2,588	2,595	2,696	2,796	2,956	3,069	3,138	3,169	3,278
		2017年度	3,681	3,868	5,243	5,626	5,754	5,725	5,783	5,846	6,311	6,437	6,630
合 計		2016年度	13,338	13,241	13,262	13,357	13,420	13,502	14,006	14,504	14,662	14,884	15,364
		2017年度	15,946	16,362	17,059	18,842	19,560	19,957	20,703	22,061	22,560	23,115	23,925

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業貸付金残高	JTキャピタル	2016年度	4,038	4,099	3,912	3,854	3,847	3,793	3,794	3,787	3,818	3,922	4,039
		2017年度	4,202	4,259	4,317	3,094	3,262	3,358	3,531	3,728	3,925	4,053	4,532

【特記事項】※2 2016年7月に、2016年9月に改正施行される与信専門金融業法の個人信用貸付比率の規定を遵守するため、系列貯蓄銀行へ個人信用貸付債権1,491億ウォンの債権譲渡を行っております。

■ 東南アジア金融事業

単位: 億ルピア

Jトラスト銀行インドネシア (BJI)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
銀行業における貸出金残高※	2016年度	80,735	83,157	82,922	84,081	86,344	87,851	83,664	86,477	93,672	93,186	97,457	99,924
	2017年度	101,798	105,232	107,323	104,318	106,729	105,174	106,033	107,092	111,843	109,295	109,969	107,360

【特記事項】※決算月のずれを修正しているため、決算補足説明資料とは整合しません。

例) 決算補足説明資料 2016年3月のデータ ⇒ 2015年12月のBSから集計

PT Group Lease Finance Indonesia (GLFI)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
GLFI残高	2016年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2017年度	-	-	-	-	-	102	179	223	328	462	709	998
BJI融資残高 (GLFI関連)	2016年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2017年度	-	-	-	-	-	25	91	132	232	359	591	864

